特30-914
1200800176695
特30
914
267
406

始

特30-914
1200800176695
特30
914

京都府水産講習所一覽

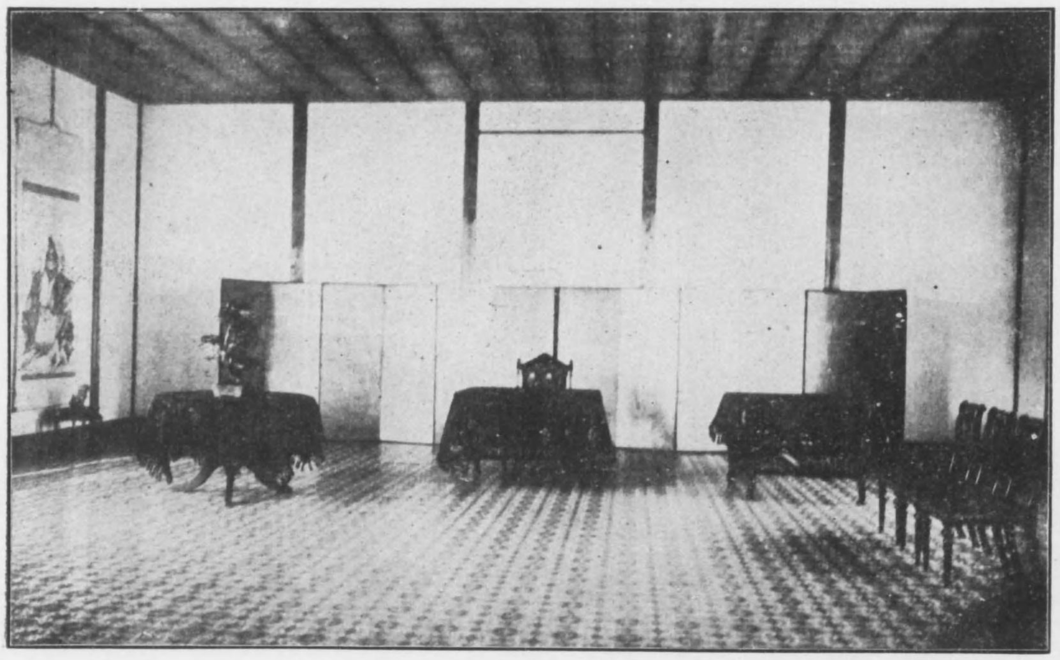
自明治四十三年四月
至明治四十四年三月

287
406

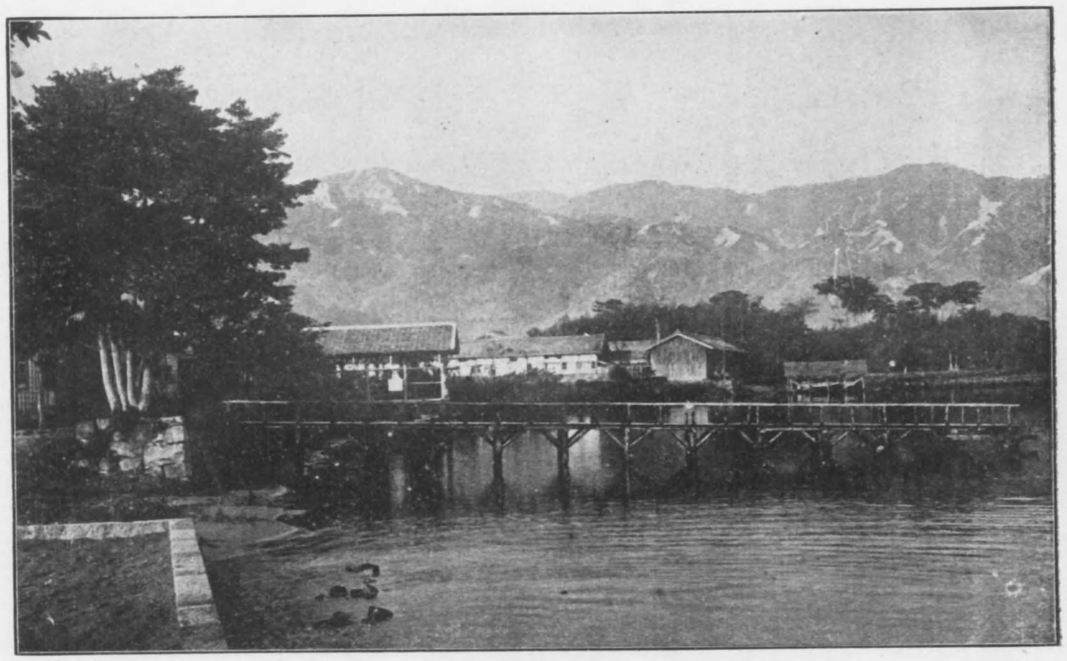
特30
914

所本　景各

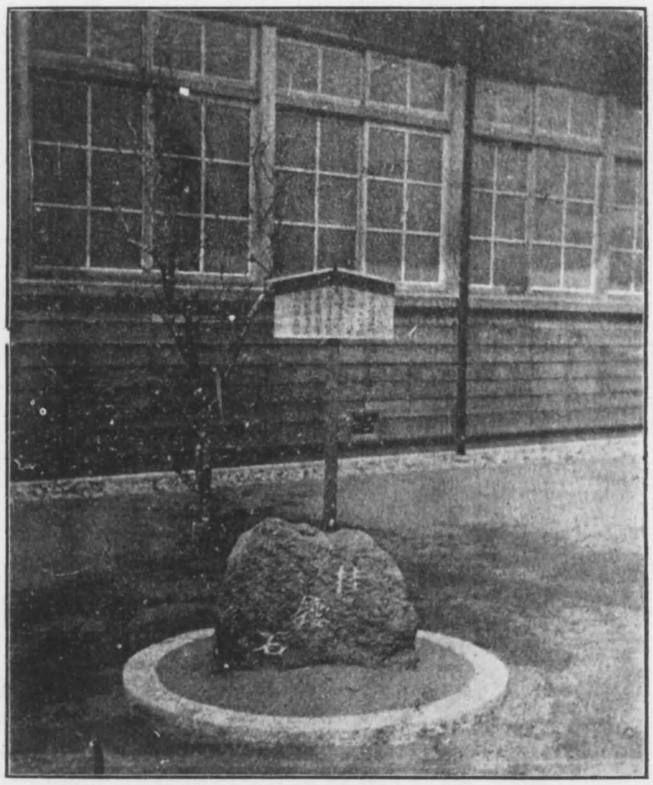
海ヨリ見タル本所全景



皇太子殿下御休憩所
（上楷所習講產水府都京）



皇太子殿下行啓紀念棧橋
（京都府水産講習所）



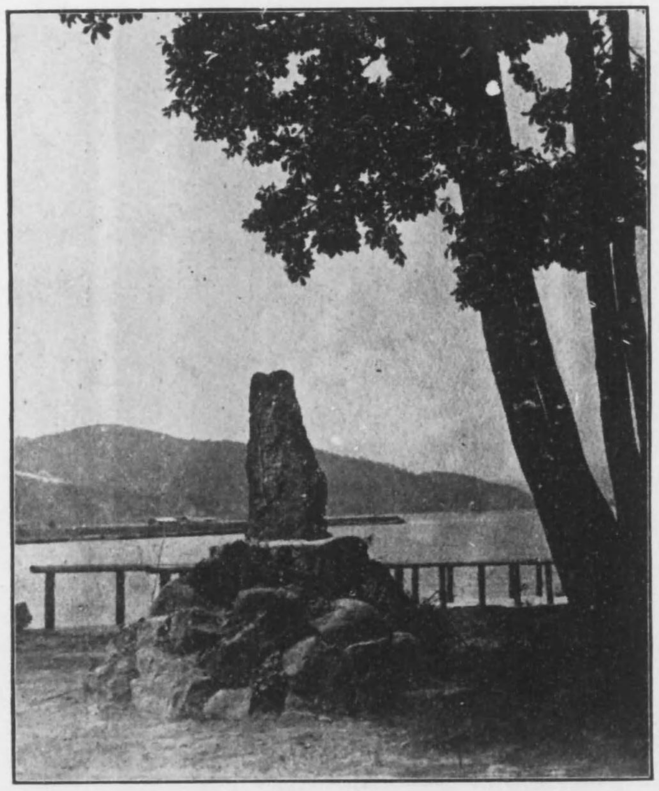
東宮殿下挂履石記

伏想　東宮殿下臨
諸本所細閲巧技干
實習各室辱下問之
榮出暫挂履于此石
乙覽岸表所引之演
漁船神彩鶴象今尚
存焉永以宜爲紀念

挂

履

石



東宮殿下行啓棧橋記

東宮殿下山陰行啓明治四十年五月十三日清明寄鶴船
閲本所此舉實昭代之光榮是其奉送之棧橋刻石垂不朽

京都府水産講習所長技師勳六等牛窪其三男謹記

東宮殿下京都府水産講習所へ行啓し給ひし記

畏くも東宮殿下本所へ行啓ぜられ親しく本所作業の實況を御覽あらせられたることは其當時の各新聞紙に記載せられ滿天下の人之を知らざるなしと雖も新聞紙の記事は往々にして其事實を誤れる者あり又省畧すべきを省畧せずして却つて重要なる記事を逸することあり故に今茲に謹みて行啓の顚末を詳述し無上の光榮を銘記し以て紀念とす

明治四十年五月十三日本所は　東宮殿下行啓の光榮を擔へり抑本邦水産講習所及水産試驗場の設立せらるゝもの其數尠なきにあらざるも此恩澤に浴せるもの實に本所を以て嚆矢となす本所の榮譽更に一層の大なる者あるなり斯日天に一片の雲もなく地に一陣の風もなし晴れ渡りたる春光は靜けき與謝の灣頭を照し蜿蜒たる天橋の翠松は一入の綠を添ゆるの觀あり本所職員は朝まだきより身体を清め室の内外を淨め殿下の行啓を待ち奉る準備をなせり華美なる裝飾は務めて之を避け玄關に幕を張り高く國旗を揭揚して以て奉迎の赤誠を表示したり午前八時牛窪所長は腕車を驅つて天の橋立に向ふ蓋し所長は殿下を奉迎すべく又殿下の清覽に供すべき網曳に關する總ての指揮を囑托せられ居しを以て之が任務を果すべく併せて網曳に對し殿下の御下問に答へ奉るべく出向せるなりき午前十時半御乘艦追風は供奉の諸艦と共に天橋千貫松の沖合に投錨し殿下はカーキー色の御軍服に彩色燦然たる勳章を佩びさせられ御艶々しき御顏色にて

明治42.7 内交

御上陸特に設けたる六角形の御休憩所に入らせ給ふ折柄府中村溝尻漁業組合員の一隊は牛窪所長指揮の下に地曳網を御休憩所近く曳き寄せて御覽に入れ參らせたるに黒鯛鱸鱚鰯其他雜魚等漁獲せられたるもの數知れず之を見給ひたる殿下の御喜悅斜ならず直に大森知事を顧みて此等漁獲物を御側近く持ち運ぶべく命じ給ひ種々御下問ありたれば知事は遙か離れて畏りたる牛窪所長を指て彼が本府水產講習所長にて牛窪と申す技師なり彼に御尋ね下されば明に御答へ致すべしと申したるに殿下には自ら所長を麾き給ひ殊に御傍近く招き寄せ給ひて此魚は何と云ふや此魚は人の食用に供し得るや抔仰せて其說明を最と熱心に御聽取りあり所長が一禮して御傍を罷り下らんとするを大森知事引き留めて最とも眞面目に「牛窪君はオムラと云ふ魚を知れるか」と所長は知事の戲れ事とは少しも心付かず之れ亦最も眞面目に「斯樣な名の魚は全く存せず」と答へたれば知事に直に殿下の前に進み「殿下に申上ます唯今御聽の通り水產專門の技師さへも存せぬと申す者を何條大森が存じませう何かの間違で御座りませう」と微笑を含みて言上すれば殿下は最とも御愉快氣に聲高くカラ〳〵と打笑ひ給ひ知事の肩を輕く打敲き「大森串戲云ふてはいけないよ串戲云ふてはいけないよ」と御喜悅の狀滿面に溢れて戲れ給ひ稍や暫くして腕車に召され相成山に向はせ給ひぬ

嗚呼思へば斯くの如き破格の御取扱を以て御上陸後直に御側近く所長を御招きあり親しく種々の事々御下問ありしさへ所長の身に餘る榮譽として千載の下之を本所に傳ふべき事抔なるにかてゝ加へて殿下御上陸後初めて御耳に入れたるは我水產講習所てふ言葉にして御覽に入れたるも亦我水產の利なりしとは斯業の爲め永久紀念すべき一大慶事たりとす殿下の立たせ給ふ御姿を拜し奉りて所長は感泣の涙に咽びし折柄歡迎の爲めに集まりて今までの有樣を目擊せる人々一時に所長の身邊に蝟集し來たり君は今日破格の光榮を被りたり宮津町全町民の榮譽を君一身に擔ひたり宜しく講習所の歷史に特筆すべし牛窪一家門の名譽として其歷史に大書すべし抔口々に囃し立て稱へ立て共に今日の光榮を祝し且羨まれたると誠に喜びの極みなりし

所長は列外より殿下に扈從し奉り相成山傘松の下蔭に新に築きし御休憩所の傍まで參り殿下が天橋の絕景を一眸の下に御覽せられ彼方此方の絕景を殘る隈なく見廻はし給ひつ大森知事を呼びて種々御下問あり最と深き興に入らせ給ひける頃所長は知事を經て阿蘇の浦波靜かなる片邊りにて此地有名なる沖打網を御覽に入れ參らすべき旨言上しければ殿下はツト顧み給ひて自ら御聲高く「水產講習所長よ」と呼び給ひ所長畏りて御傍近く參れば「尙ほ近く參り悉しく說明せよ」との御言葉を懸けられ所長の說明を細かに

聞し召されて「成程面白き獵なり」と仰せ給ひつ尙ほ色々の御物語りあらせられ名にし負ふ天下の勝景を愛でらるゝ御興は何時果つべしとも伺ひ知られざりしが頓て晝にもならんとする頃還啓仰せ出されて元の道へと引返し厚松の中新築の御便殿に入らせ給ひぬ爰にても亦所長は宮津町漁業組合員一隊を指揮して地曳網を使用せしめたるに最とも大なる鰤七本を捕獲し得たるにより此事を言上せるに速に持ち參れとの仰せなりしかば之を大盥に游がせ御便殿の石段近く運びけるに殿下は直に石段の下まで降り立ち給ひ所長よりの說明を御聽取りありける折しも潑溂たる大鰤の何に感じてか忽ち身を躍らせて跳ね上り飛沫は散りて玉服に濺ぎかゝりぬ殿下は手を拍て喜び給ひ聲を立てゝ笑はせ給ひ如何に愉快なるとよと仰せられ最と御滿足の体に見受け參らせたると之れ亦喜びの極みなりき其れのみならで此鰤は燒物として御晝餐の御副物となりしと後に漏れ聞くだに喜ばしく又有難きとなりき所長は此所に一旦御暇乞ひ申上げ後の行啓を御待ち申上る旨言上して急き本所へ引返しぬ本所に於ては總ての準備を整へて行啓今や遲しと待つ程に午後四時と云ふに殿下は御車にて東郷大將、日高長官、中山東宮太夫及大森知事其他供奉の諸員を從へ本所へ着し給ふ所長御案內申上げ新築階上の御休憩所に入らせられ此所にて所長には重ねて拜謁を賜ひ東宮太夫を經て譯若干を下賜せら

る十分間許御休憩の後所長の案內にて階下に降りさせ給ひ標本室に入御本所に於て採集したる魚類其他水產標本に付き最と緻密なる御下問あり所長一々御說明申上ぐ殊に三十七八年の戰役に當り本所が熱心製造に從事したる軍食魚類罐詰の標本に付ては其當時紀念の爲めに撮影したる寫眞を以て詳細に御說明申上げたるに殿下には一々「ソーカ」「アヽソーカ」との御會得の言葉を給はり又特に今回陳列したる丹後地方水產製造品には殊に一層御注目あらせられ五十餘點の多き一々其附け札に記載しある品名及出品人名等を御讀み下し給ひ其製造方法使用方法等に就て委しく御下問ありたり頓て玉步を製造實習室へ運ばせられ洗場、調理場、油煤場乾燥場等順次に巡り給ひ折柄盛に製造せる鰮油漬罐詰の原料たる鰮の調理、乾燥、油煤の狀況より充塡、實罐、空罐、封鑛及蒸煮の作業實況まで一々御覽あり所長は精細なる御下問に答へ奉りたるが殿下は最と御滿足の有樣にて「今日は誠に珍らしきものを見たり」と仰せ給ひぬ原來此鰮油漬罐詰製造には多くの油を用ゆるとなれば製造中は一種の臭氣を發し其上一時雇ひ入れの職工等も多きとなれば此所に殿下を御導き申上ぐるは如何あらん抔の說もありしが所長の切なる願により遂に此所に殿下を御導き申上るとなりたる次第なるが殿下には夫等の臭氣には何等の御頓着もなく油付きたる衣を纏へる生徒の傍に佇立して作業の實況を凝視あらせ

られ供奉の人玉衣の油に汚れんとを恐れて今少しく遠かり給へと勸め參らせたるに殿下には「ナニ構はないよ」と仰せられて凡そ三十分許り油臭き蒸氣の立ち籠れる室内を巡視せられたる御心の程有り難くも亦恐れ多き次第なり夫れより玉歩を漁撈實習室に運ばせ給ひ陳列せる各種網具及ひ釣具に付き一々御下問あり所長御答へ申上ぐ此室より直に裏手の海岸に新に設けたる棧橋へと向はせ給ふ折柄少し横手の海岸に引き寄せたる本所實習船を御覽せられ彼は何の爲めの船なりやとの御下問に對し所長は彼は本所の實習船にて主として生徒を乘組ましめ沖合に於て種々の漁業を實習せしめ又漁業上種々なる試驗を實行する場合に供用する者にして彼の中二隻は漁場探究の爲め昨年及一昨年朝鮮海に派遣したる者なりと御答へ申しければ殿下には自からツカ〳〵と此漁船の下にまで歩ませ給ひて朝鮮海出漁の實況等更に御下問あり靜に玉歩を再び棧橋の方に運ばせ給ひぬ今しして殿下の今日の行啓に對し心ばかりの御禮を申上げん爲め且は還啓を御送り申さんが爲め棧橋近く立並び近づき給へる殿下の御姿を拜し敬虔の念に打たれたる職員家族の前を殿下の過ぎ給ふを見て大森知事は之が當所の職員家族ですと言上しければ殿下には「アヽソーカ」と微笑を湛へさせ給ひ少しく斜に向ひ舉手の禮を行はせられ御機嫌最とも麗かに棧橋より直に艦載水雷艇により御乘艦追風へと向ひ給

ひぬ

靜み返りし與謝の海微に春風吹き立ちて金波銀波を躍らせつ松影高き橋立の清き白砂は夕陽に一入光輝きて心なき山海も今日のみは心ありて御名殘りを惜み奉るが如く海と云はず陸と云はず群がり集ふ幾萬の奉送者が天地も震撼せよと一度につくる萬歳聲裡に芽出度御乘艦に移らせ給ふ森嚴なる殿下の御旗は高く檣頭に飜り供奉の諸艦は前後に列位を正し整々肅々として搖ぎ出で英風雄姿の全く灣頭に沒せしは斯日午後五時を過ぐる頃なりき

京都府水産講習所一覽

目次

第壹章　沿革及組織

一　沿革概要……一
二　職業規程……四
三　處務細則……五
四　服務規定……一一
五　水産講習所資特別會計幷ニ資管理方法……一二
六　職員……一三

第貳章　規則及規程

一　規則……一五
二　特別講習生規定……二一
三　生徒心得……二三
四　漁具及水産物製造依賴規定……二四

第參章　設備

一　敷地……二五
二　建物……二六
三　實習ニ關スル設備……三〇
(一)　漁撈科……三〇
(二)　製造科……三六
(三)　養殖科……三七

第四章　實習

一　本所實習……三八
二　所外講習……四二
(一)　所外講習生撰定內規……四二
(二)　所外講習生出願手續及心得……四三

第五章　講話及設計……四四

第六章　生徒

一　在學生徒……四五

目次

二　修了生狀況……四七
第七章　試驗事業
一　漁撈部……五二
二　製造部……六一
三　養殖部……六九
第八章　經費
一　經常費……七二
二　臨時費……七三

京都府水産講習所一覽

第壹章　沿革及組織

一、沿革概要

本府ハ夙ニ水産事業奬勵ノ必要ヲ感ジ當局者ニ於テモ種々其方法ヲ講ジツヽアリシガ遂ニ明治三十年開會通常府會郡部會ノ協贊ヲ得タル本所設置ノ建議ヲ時ノ府會議員上野修吉宮崎六左衛門春日和助三氏ノ名ヲ以テスルニ至リ三十一年十一月十六日其規定ヲ具シ設置認可稟請書ヲ農商務大臣ニ提出セリ○明治三十一年十一月二十六日附設置認可○明治三十二年五月一日開所式ヲ擧行ス其當時在職セル職員ハ所長心得技手牛窪其三男技手神谷文吉書記濱田新之允ナリ○明治三十二年五月山下安治郎實業教師ニ就任○明治三十二年十二月技手神谷文吉辭任○明治三十三年一月二十六日規則ノ一部ヲ改正ス○明治三十三年四月內島岩藏技手任命○明治三十三年四月後藤義一郎技手任命○明治三十三年五月一日附國庫ヨリ今後五ケ年間一ケ年金壹千圓交付指令○明治三十四年二月書記濱田新之允職ヲ辭シ中川惣吉就任○明治三十四年十一月糸井藤吉雇ニ就任○明治三十五年三月三日附國庫補助額更ニ一ケ年壹百圓增加指令○明治三十五年四

月十六日附國庫補助額更ニ一ヶ年壹百圓增加指令○明治三十五年十二月再ビ規則ノ一部ヲ改正ス○明治三十七年三月技手內島岩藏長崎縣ヘ出向被命○明治三十七年四月附國庫補助金交附繼續指令○明治三十七年四月軍食罐詰製造着手○明治三十七年四月十三日實業敎師山下安次郎依願免職○明治三十七年四月二十三日本所新築敷地ヲ宮津町字鶴賀ニ撰定同日地鎭祭ヲ施行ス○明治三十七年十二月本所蓄積金規定ヲ設ク○明治三十八年五月一日淸水安太郎實業敎師ニ就任○明治三十八年六月軍食罐詰製造ヲ終了ス○明治三十八年八月製造實習室、瀘罐室、洗塲、調理塲、浴室、便所其他附屬建物五棟ノ建築幷ニ製造實習用機械ノ据附工事ニ着手翌三十九年三月竣成○明治三十九年六月事務室漁撈實習室、應接室、宿直室、生徒控所、地下室、寄宿室其他附屬物九棟建築工事ニ着手同年十一月二十五日竣成○明治三十九年八月十五日登阪高三技手任命○明治三十九年九月十三日技手後藤義一郎農商務省海外實業練習生被命○明治三十九年十月三十日技手後藤義一郎北米合衆國ヘ出張被命○明治三十九年十一月十四日技手後藤義一郎技師任命○明治三十九年十二月八日濱田直作技手任命○明治四十年三月六日技手登阪高三依願免本職○明治四十年三月廿九日本所新築落成式擧行○明治四十年四月三十日雇糸井藤吉技手任命○明治四十年五月一日ヨリ同七日マデ第四回京都府水產品評會ヲ本所內ニ開ク○明治四十年五月三日技手糸井藤吉依願免本職○明治四十年五月九日魚住定吉技手任命○明治四十年五月九日田井安太郎技手任命○明治四十年五月九日一色彌太技手任命○明治四十年五月十三日東宮殿下本所ニ行啓セヲレ親ク本所作業ノ實況ヲ視察シ給フ○明治四十年五月十三日　東宮殿下金若干ヲ下賜セラル○明治四十年六月十九日本所機關室ヨリ火ヲ失シ全建設物ノ半及製品ノ大部分ヲ烏有ニ歸セシム○明治四十年十一月二日本所開所以來忠勤セシ小使上山岩藏病ヲ以テ死ス○明治四十一年二月二十四日技手濱田直作山口縣ヘ出向被命○明治四十一年三月八日技師後藤義一郎米國ニ於ケル鰮油漬罐詰販路及製造事業視察ヲ終ヘ歸所○明治四十一年三月九日實業敎師淸水安太郎辭任○明治四十一年四月二十日建部賢德書記任命○明治四十一年八月製造實習室其他火災後ノ改築工事ニ着手仝四十二年一月竣成○明治四十一年十月十日一色勇技手任命○明治四十一年十月十四日岩田雄技手任命○明治四十二年五月三十一日技手岩田雄免本職○明治四十二年十月二十五日本所修業生ノ組織セル同窓會主催ノ下ニ本所創立十年紀念祝賀會ヲ開催ス○明治四十二年十二月十三日奥津與美技手任命○明治四十三年三月三十一日技師後藤義一郎依願免本職○明治四十三年五月二十四日柳澤成悌技師任命○明治四十三年七月十六日韓國皇太子殿下本所ニ臨御親ク本所作業ノ實況ヲ視

察シ賜フニ金若干ヲ以テセラル○明治四十三年八月五日技手魚住定吉依願免本職○明治四十三年八月五日木崎金藏技術雇任命

一、職業規定

第一條　本所ニ左ノ職員ヲ置ク

但臨時雇教員ヲ置クコトアルベシ

一所長　一名

一技手　若干名

一書記　若干名

第二條　所長ハ府知事ノ指揮監督ヲ受ケ本所一切ノ事務ヲ統理ス

第三條　技手ハ所長ノ指揮監督ヲ受ケ教授及實習並ニ試驗ヲ分擔ス

但臨時雇教員ヲ置キタル場合モ本條ニ準ス

第四條　書記ハ所長ノ指揮監督ヲ受ケ庶務會計ニ從事ス

第五條　所長病氣又ハ事故ニヨリ不在ノトキハ首席技手之ガ代理ヲ爲スモノトス

第六條　所長ハ本所整理ノ爲メ必要ナル內規ヲ定メ府知事ノ認可ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得

第七條　所長ハ毎月一回本所諸般ノ成績ヲ府廳ヘ報告スベシ

三、處務細則

第壹章　總則

第一條　所長ハ所ノ事務ニ付テハ所名又ハ所長名ヲ以テ府廳ヘ文書ヲ往復スルヿヲ得

但往復文書ハ所印又ハ所長印ヲ用ユベシ

第二條　所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長、技手、實業教師、書記

第二章　職務分科

第三條　職員ノ分科左ノ如シ

所長

一、本所取締ニ關スルコト

一、講習分擔ニ關スルコト

一、職員及生徒ノ願伺屆ニ關スルコト

一、事務成績ニ關スルコト

一、職員幷ニ生徒監督又ハ取締ニ關スルコト

一、職員出張ニ關スルコト
一、生徒處罰ニ關スルコト

技手及實業教師

一、教授ニ關スルコト
一、實習ニ關スルコト
一、水産製造水族標本ニ關スルコト
一、鰭鰤漁業ニ關スルコト
一、當業者其他質問ニ關スルコト

書記

一、文書及物品接受發送ニ關スルコト
一、收受文書ノ處分既未濟調査ニ關スルコト
一、往復文書淨書ニ關スルコト
一、文書簿冊書籍整理ニ關スルコト
一、職員出勤簿生徒出席簿ニ關スルコト
一、所長印所印諸鍵保管ニ關スルコト

一、書籍簿冊諸器具諸備付品保管ニ關スルコト
一、宿直ニ關スルコト
一、庶務會計ニ關スルコト

第參章

第四條　所長ノ處務順序

一、講習科目ノ分擔ヲ定メ之ヲ實施セシムルト同時ニ府廳ヘ報告スルコト
一、豫算定額内ヲ以テ實習又ハ調査若クハ講話等ノ爲メ職員ノ出張ヲ要シ其要務管内ニシテ出張日數五日以内ナル片ハ之ヲ專行シ其五日以上ニ渉ルトキ及管外出張ハ其用務及出張日數里程等ヲ記シ府廳ヘ經伺ノ上執行スベシ
但臨時要急ノ塲合及生徒實習上管外ヘ出張スル塲合ハ臨機之ヲ執行シ直ニ本文ノ事項ヲ記シ其理由ヲ具シ府廳ヘ上申スルコト
一、本所ニ授受スル文書及物品ハ之ヲ査閲シ其重大ノ事件ハ自ラ之ヲ處理シ普通ノモノハ書記ヲシテ其處理ノ手續ヲ爲サシムルコト
但時宜ニヨリ技手ヲシテ所務ヲ取扱ハシムルコトヲ得
一、本所々用ノ物品ヲ購入セントスルトキハ書記ヲシテ成規ノ手續ヲ爲サシメ尚ホ精

査ヲ了シ府廳ヘ經伺ノ上執行スルコト

一、職員ノ缺勤屆、忌引屆、看病願、歸省願、轉地療養願等ヲ經伺ノ上處理スルコト

但五日以上ニ渉ル忌引屆、歸省願、看病願、轉地療養願等ハ特ニ要急經伺ヲ待ツ能ハザル塲合ハ之ヲ專行シ之ト同時ニ府廳ヘ上申シ其他ハ府廳ヘ經伺ノ上處理スルコト

一、生徒小使ニシテ前條同樣ノ屆及願ヲ差出シタルトキハ之ヲ專行處理スルコト

一、生徒ニ對スル處罰ハ其事實ヲ査覈シ水産講習所規則第二十三條ニ照シ寛嚴其宜シキヲ料リ處分スベシ

但該條罰則中停學放所二項ニ處セザルヲ得ザルト認ムルトキハ其事實ヲ詳記シ經伺ノ上其裁可ヲ經テ執行スベシ

一、所中一切ノ事務成績一ケ月分ヲ經メ毎月十日マデニ府廳ヘ報告スベシ

但至急ト認ムルモノハ其都度報告スベシ

第四章

第五條　技手及實業教師ノ處務順序

一、課業ハ嚴肅ヲ旨トシ擔任ノ教科ヲ懇切ニ生徒ニ講習スルコト

一、實習ノトキハ技手一名若クハ二名及實業教師付添ヒ嚴正ヲ旨トシ生徒ヲシテ沈勇耐勵ノ氣ヲ養成セシメ輕怯怠漫ニ流レ倦マザラシムルコト

一、所長ノ承諾ヲ經テ漁船漁具ノ製作物ヲ保存シ漁獲物中ノ一部ヲ製造又ハ標本ニ製シ保存スルコト

一、實習上諸般ノ準備ヲ周到ナラシメ實施上遺漏ナカラシムルコト

一、課業外ト雖モ生徒ヲシテ水産ニ屬スル諸般ノ智識ヲ啓發セシムルコトヲ指示シ又ハ注意セシムルコト

一、管内各沿海及各河川池沼アル地ニ出張シタルトキハ漁塲ノ狀況舊來ノ慣行漁業及水産製造ノ方法捕魚ノ種類及製造ノ實數等ヲ注意シ既往將來ノ販路ヲ鑒ミ奬勵勸誘上改良ヲ旨トシ蹉跌ナキヲ勤ムルコト

一、從來ノ漁法漁具及製造器械ヲ改良セントスルトキハ其利害得失ヲ熟査シ猶ホ實地ニ施行シタル他所ト有利無害ナル實績確例ヲ精査シタル上之ヲ施行スルコトヲ勸誘シ輕忽ニ失スルナキヲ勤ムルコト

一、生徒外ノ漁業者水産業ニ關スル攻究質問ヲ請求スル者アルトキハ課業時間外ニ於テ懇篤ヲ旨トシ平易ニ簡明ニ說示スルコト

但重大ノ事項ハ所長ノ意見ヲ聞キ應答スルヲ要ス

第五章

第六條　書記ノ處務順序

一、本所ニ到達スル諸文章ヲ收受シ開封ノ上收受件名簿ニ分類登記シ其文書ノ欄外ニ番號及受付ケタル月日ヲ記シ之ヲ所長ニ送付シ證印ヲ徵スベシ

但親展文書ハ封緘ノ儘送附簿ニ登記シ之ヲ宛名ノ職員ニ配付シ及所長宛ノ分ニ限リ所長不在ノ時ハ首席技手ニ送附スベシ

一、處理件名簿ヲ備ヘ諸文書及物品ノ件名等ヲ詳記シ置キ尙ホ其事件結了ニ至ル迄立案裁決等ノ月日ヲ件名簿ニ記入シ其既濟未濟ヲ明ニスベシ

但所長ノ發案ニ係ル諸文書稟申等モ本項ニ準スベシ

一、所長ノ發案ト自ラノ起案トヲ論ゼズ淨書校合ノ上職印又ハ所印ヲ捺シ番號ヲ朱記シ發送簿ニ件名月日ヲ記入シ之ヲ發送スベシ

但至急ヲ要スルモノハ直ニ淨書發送スベシ

一、前項文書及物品等發送ノ場合ハ其封書ノ件名物品　名稱及量目郵便稅額等ヲ郵便電信差立簿ニ記入スベシ

一、發送スルトキハ字數月日料金種類及受信人發信人ノ官姓名ヲ前項ノ郵便電信差立簿ニ記入スベシ

一、日常取扱フ諸文書物品ヲ類別遺漏ナク綴込ヲ作リ一ヶ年分取纏メ整理保管スルコト

一、所ノ財產ニ屬スル備付品其他諸器具物品書籍簿冊等ヲ遺漏ナク目錄ヲ作リ之ヲ保管スルコト

一、職印所印各箱ノ鍵ヲ保管スルコト

一、職員出勤簿生徒出席簿ヲ毎日所長ノ席ニ配置シ退所後之ヲ保管スルコト

一、所長ノ指揮ニ從ヒ右記載ノ外所中ノ庶務會計ニ從事スルコト

一、會計收支取扱ハ既定會計取扱則規ニヨリ取扱フコト

四、服務規定

第一條　職員昇所スレバ必ズ先ヅ出勤簿ニ捺印シテ職務ニ就クベシ

但定期時限三十分ヲ過ギ出勤シタル者ハ書記ニ於テ遲參ノ記入ヲ爲スベシ

第二條　執務中早退セント欲スルモノハ所長ノ許可ヲ受ケ出勤簿ニ早退ノ記入ヲ爲スベシ

第三條　執務時間中所外ニ出ルトキハ公用ト雖モ所長ニ申告シ置クベシ

第四條　所長ハ所務ノ都合ニヨリ執務時間外若クハ休暇日ト雖モ各職員ヲシテ服務セ

シムルコトアルベシ

第五條　退所ノトキハ諸簿冊文書々籍及器械物品ハ必ズ匣内ニ收藏シ散逸スベカラズ
但宿直ノ管守ヲ要スルモノハ其物品等ノ名稱ヲ帳簿ニ記シ宿直員ノ印ヲ徵シ置クベシ

第六條　職員管内外ニ出張ヲ命ゼラレタルトキハ出發届ヲ出發前ニ歸所届ヲ歸所ノ日又ハ其翌日ニ差出スベシ

第七條　出張巡回ノ用務ヲ了シ歸所シタル時ハ必ズ復命書ヲ七日以内ニ所長ヲ經テ府廳ニ差出スベシ
但事簡易ナルモノハ所長ニ口述スルヲ得

五、水産講習所資金特別會計設置并ニ資金管理方法

明治四十三年五月　皇太子殿下水産講習所ヘ行啓アラセラレタル際金貳拾五圓下賜セラレタルニ依リ紀念ノ爲メ水産講習所資金トシ特別會計ヲ以テ整理シ追テ使途ヲ定ムル迄年々增殖スルモノトス其管理方法ヲ定ムルコト左ノ如シ

水産講習所資金管理方法

第一條　資金ハ確實ナル銀行ニ預ケ入レ又ハ國債證劵ヲ購入スルモノトス

第二條　資金ヨリ生ズル利子ハ資金ニ編入スルモノトス

第三條　資金增殖ノ目的ニ係ル寄附資金アルトキハ資金ニ編入スルモノトヌ

六、職員

所長　技師正七位勳六等　牛窪其三男

主任　○製造科　技師（明治四十三年五月二十四日就任）　柳澤成悌

技手　田井安太郎

技手勳八等　一色彌太

主任　○漁撈科　（明治四十三年八月五日辭任）　技手　奥津與美

技手　魚住定吉

技手　一色勇

（明治四十三年八月五日就任）　技術雇　木崎金藏

主任　○養殖科　技師　牛窪其三男

職員

○庶務科

主任　書記勳八等　中川惣吉
　　書記勳八等　建部賢德

第貳章　規則及規程

一、規則

第壹章　總則

第一條　本所ハ水産ニ關スル學理及技術ヲ講習シ實業上須要ナル智識技能ヲ授クルヲ目的トス

第二條　本所ハ水産ニ關スル事項ニ付巡回講話試驗又ハ調査ヲ爲ス
巡回講話試驗又ハ調査ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第三條　本所ニ本科及別科ヲ置ク

第四條　講習期ハ本科一ケ年別科二ケ月トス
本科ハ學理及技術ヲ併習セシメ別科ハ主トシテ技術ヲ習得セシム
別科ハ數回ニ分チテ講習シ又ハ講習期間ヲ伸縮スルコトアルベシ

第五條　講習生徒ノ人員ハ本科二十名以内別科三十名以内トス

第貳章　學科規程

第六條　學科ハ漁撈製造、養殖ノ三科トス
本科ハ前項ノ學科中一科ヲ專修セシメ別科ハ各科ノ内ニ就キ其種目ヲ定メ之ヲ專修セシム
前各條ニ規定スルノ外水産ニ關シ希望ノ學術ヲ臨時修得セントスル者ノ爲メ特別講習生ヲ置ク
特別講習生ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第七條　本科ノ科程ヲ定ムルヿト左ノ如シ

漁撈科
- 水産通論
- 漁船構造
- 漁船運用
- 漁具構成
- 漁具材料
- 漁撈法

實習及實驗

製造科

水產通論

食用品

食製品

製造器具器械

製用材料

製造法

實習及實驗

養殖科

水產通論

水產養殖

蕃殖保護

發生學

實習及實驗

第參章　講習授業時間及休業

第八條　講習期ハ本科ハ毎年四月之ヲ初メ別科ハ季節ヲ撰ビ隨時之ヲ定ム

第九條　授業時間ハ別ニ定限セズ所長隨時之ヲ定ム

第十條　本所ノ休業日左ノ如シ

日曜日

大祭日

祝日

夏季十五日間

冬季十五日間

第四章　入所在所及退所

第十一條　本科生ハ毎年講習期ノ初メ入所セシム

但時宜ニヨリ臨時入所ヲ許可スルコトアルベシ

第十二條　入所ヲ志願シ得ベキ者ハ男子ニシテ且左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ要ス

一、體質健全品行端正ナル者

一、漁撈本科生ハ年齢十七年以上ニシテ尋常小學校四年級以上ノ課程ヲ卒ヘクルモノ

若クハ之レト同等以上ノ學力アル者

一製造本科生ハ年齢十七年以上ニシテ尋常小學校六年級以上ノ課程ヲ卒ヘタルモノ若クハ之レト同等以上ノ學力アル者

一別科生ハ年齢二十年以上ニシテ水産業ニ從事シタル經歷アル者

但本人ノ体質又ハ從來ノ經歷等ニヨリテハ本項ノ制限ニ依ラザルコトヲ得

第十三條　入所志願者ハ左式ノ願書ニ履歷書及第十二條各號ニ關スル居住地市町村長ノ證明書ヲ添ヘ毎年三月十日限リ差出スベシ

入所願書

私儀貴所何科(本科、別科)何(漁撈、製造)養殖專修志願ニ付入所御許可相成度別紙履歷書相添ヘ此段相願候也

族籍職業
住所
某男子弟等
何
某 印
何年何月何日生

年月日

京都府水産講習所長何某殿

履歷書

族籍職業
住所
某男子弟等
何
某
何年何月何日生

一何年何月何地(公私)立何學校ニ入學何學科修業又ハ何年修業

一何年何月ヨリ水産ニ關スル實業其他何々業ニ從事ス

右之通相違無之候也

年月日

右
何
某 印

第十四條　入所許可ヲ得タルモノハ成年以上ノ男子ニシテ獨立ノ生計ヲ營ムモノ二名ヲ保證人ト定メ左ノ書式ニ依リ在學證書ヲ差出スベシ

但其一人ハ本所々在地ニ住居スル者ナルコトヲ要ス

在學證書

何某今般入所御許可相成候ニ付テハ御規定ノ條規ヲ守ルベキハ勿論半途妄リニ退所致間敷尚本人ニ係ル一切ノ事件ハ保證人ニ於テ引受可申候也

住所族籍職業
保證人　何　某 印
何年何月何日生
住所族籍職業
保證人　何　某 印
何年何月何日生

年　月　日

京都府水産講習所長某殿

第十五條　保證人死亡シ又ハ獨立ノ生計ヲ營ム能ハザルニ至リシトキ若クハ本所々在地外ヘ轉居シタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ在學證書ヲ引換ユベシ

但本條ニ掲グル外保證人轉居又ハ改名其他異動アリタル時ハ直チニ届出ヅ可シ

第十六條　生徒ハ半途退所スルヲ得ズ

但病氣其他已ヲ得ザル事故ニ因リ保證人連署ヲ以テ退所ヲ出願スル時ハ特ニ許可スルヿアルベシ

第十七條　生徒在所中病氣其他ノ事故ニ因リ前途成業ノ見込ナキ者ニハ退所ヲ命ズルコトアルベシ

第五章　授業料

第十八條　本所ハ授業料ヲ徴收セズ

第六章　試業

第十九條　生徒ハ平素ノ成績若クハ講習期末試業ノ成績ニ依リ修業證書ヲ授與ス

第七章　賞罰

第二十條　講習ノ成績優等ナル者ハ講習期末ニ於テ特ニ之ヲ褒賞スルコトアルベシ

第二十一條　生徒左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ懲罰ス

一、怠惰又ハ品行ヲ紊リ成業ノ見込ナキ者

一、生徒ノ本分ヲ失シ規定及諭告訓戒ヲ服膺セザル者

第二十二條　懲罰ヲ分チテ左ノ三種トス

一、譴責　二、停學　三、放所

一、特別講習生規定

第一條　特別講習生タランコトヲ望ム者ハ左式ニ依リ出願許可ヲ受クベシ

但修業期間科目及種類ハ各自ニ於テ隨意之ヲ撰擇スルコトヲ得

第二條　志願者ハ確實ノ志望ヲ有シ本所ノ信認スル者ノ保證者アル限リ之ヲ許可ス

第三條　前條ニ依リ出願シタル者ト雖モ本所講習上ノ都合ニ依リ之ヲ許可ヤザルコトアルベシ

第四條　修業ニ要スル器物ハ各自携帶スベシ

但器物ノ種類ニ依リ之ヲ貸與スルコトアルベシ

第五條　講習ヲ受ケタル期間科目種類ニ對シテハ其講習修了ノ際本所之ヲ證明ス

特別譜習生入所願書

私儀貴所特別講習生トシテ入所シ(何々)科(何々)(何日)間修業致度ニ付御許可相成度此段相願候也

住所族籍職業

某男子弟等

何　某

明治年月日

京都府水產講習所長殿

前記ノ者ハ品行方正ニシテ確實ノ志望ヲ有スル者ナルコトヲ保證候也

住所族籍職業

保證人　何　某

三、生徒心得

第一條　生徒ハ規定ノ條規ヲ遵守シ言行ヲ愼ミ勤勉事ニ從ヒ苟モ本所ノ體面ヲ汚瀆スルノ行爲アルベカラズ

第二條　生徒ハ職員其他長上ニ對シ禮儀ヲ盡スベキハ勿論同學生相互ノ間ニ於テモ禮讓ヲ守ルベシ

第三條　生徒病氣其他事故ニ依リ欠課スルトキハ授業時間前其旨届出ヅベシ引續キ三日以上ニ及ブトキハ其理由及豫定ノ日數ヲ具シ(病氣ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ)許可ヲ受クベシ

第四條　本所々在地外ノ本科生徒ハ寄宿舍ニ入ルベシ

第五條　通學生ハ舍監ノ許可ヲ得ズシテ寄宿舍ニ出入スベカラズ

第六條　本所備付ノ物品ハ力メテ其取扱ヒニ注意シ若シ毀損亡失シタルモノアルトキハ直ニ其旨届出ヅベシ

第七條　通學生宿所ヲ轉ジタル時ハ即日届ケ出ヅベシ

第八條　生徒在所中ハ本所ノ定メタル服裝ヲナスハ勿論實習中ニ在テハ特ニ規定シタル實習服ヲ着用スベシ

四、漁具及水產物製造依頼規定

一　製造ヲ依頼セントスル者ハ少クモ三日前左式ニ依リ其旨届出ヅベシ

當業者ニ於テ漁具又ハ水產物製造ヲ請フ者アルトキハ本所ハ事業ノ狀況ニ依リ之ヲ許可スルコトアルベシ

二　製造依頼者ハ其製造ニ要スル原料製造材料一切ヲ持參シ之ニ要スル賃金其他本所ノ指定シタル實費ヲ支拂フベシ

三　製造依頼者ハ其製造ノ爲メ破損又ハ滅失シタル本所製造器具器械ニ對シ其損害ヲ辨償スベシ

四　製造ノ結果及製造幷ニ其原料材料ノ保管ニ付テハ本所ハ一切其責任ヲ負ハズ

五　本所ハ試驗ノ爲メ依頼者ノ物品又ハ製品ノ幾分ヲ消費スルコトアルベシ

六　製造依頼者ハ技術上ニ關シ一切可否ノ意見ヲ述ブルコトヲ得ズ

七　製品ハ本所ノ通告ニ依リ直ニ之ヲ引取ルベシ故ナク之ヲ遲滯スルトキハ臨機ノ處置ヲ爲スベシ

八　依頼品製造中ト雖モ本所ノ都合ニ依リ之ヲ中止スルコトアルベシ

此場合ニ於テ本所ハ其損害ノ責ニ任ゼズ

製造依頼書

品名	數量

右貴所依頼品製造規定ヲ遵守シ製造依頼致度候間御許可相成度此段相願候也

明治　年　月　日

住所
氏名

京都府水產講習所長宛

第三章　設備

一、敷地

本所創設ノ當時ニ於テハ當宮津町字柳縄手ノ一民家ヲ充用シタリシモ固ヨリ狹隘ニシテ何等設備ヲナスニ由ナク從テ講習上差支ユルコト多大ナルヲ以テ本所新營ニ付キ之

ガ計畫ヲナシタルコト一再ニシテ止マラズ然ルニ種々事情ノ爲メニ果サズ漸ク明治三十六年十二月府會ノ決議ヲ經テ現今ノ地ヲ撰定買收シ之ガ地均工事ヲ行ヒタルハ三十七年十一月ナリシ

本所現今ノ位置ハ京都府與謝郡宮津町字鶴賀ノ海邊ニシテ前ハ舞鶴鎮守府街道ニ沿ヒ後ハ宮津濟ヲ隔テ、天橋立ト相對ス交通ノ利實習ノ便殆ンド間然スル所ナク加フルニ風景佳絶通風採光自由ニシテ衛生上又タ双ビナキノ場所ナリトス原來此地ハ舊藩域内ノ馬場ニシテ地盤最モ堅牢ナリシモ前方道路トノ關係上稍ヤ卑濕ノ憂アリシヲ以テ當宮津町ノ特別寄附ヲ以テ全敷地ノ地盛リ工事ヲナシ明治三十八年四月之ガ完成ヲ告ゲタルヲ以テ盛大ナル地鎮祭ヲ擧行セリ敷地總面積千百四十六坪四勺之ガ買收費貳千餘圓地盛工事費六百餘圓ヲ要セリ

一、建物

明治三十七年日露戰端ヲ開クニ當リ本所職員ハ疾ク軍隊ニ魚類罐詰供給ノ必要ヲ察シ之ガ供給方ニ付キ其筋ニ向テ建議スル所アリシガ時恰モ農商務省水產局ニ於テモ一ハ軍隊副食物供給ノ一便法トシ一ハ我邦水產製造事業上ノ發展策トシテ本所ニモ其製造ヲ指定セラレ同年四月二十五日初メテ其製造ニ着手セリ同年十一月通常府會郡部會ノ協賛ヲ得テ蓄積金規定ヲ設ケラレ軍食罐詰製造費豫算ニ於テ收支差引收入過ヲ生ジ又ハ豫算超過ノ收入アリタルトキハ明治卅八年一月以降悉ク之ヲ蓄積シ以テ本所屋舍新築ノ費用ニ充ツルコト、ナリ本所職員ハ寢食ヲ忘レテ熱心之ガ製造ニ從事セシガ之ニヨリ得ル所ノ蓄積金壹萬數千圓同年八月製造實習室、瀛罐室、調理場、洗場、浴室、便所其他附屬建物合セテ五棟ノ建築ニ着手シ同時ニ製造實習用諸器械ノ据付工事ヲ起シ卅九年三月竣成同年六月事務室、教室、漁撈實習室、應接室、宿直室、生徒扣所、地中室、物置、寄宿舍、炊事場、其他附屬建物合セテ九棟ノ建設工事ヲ起シ四十年二月竣成セル者ニシテ此工費金貳萬圓餘ヲ要シタリ然ルニ同年六月十九日機關室ヨリ火ヲ失シ全建築物ノ半ヲ烏有ニ歸セシム依テ直ニ改築工事ニ着手シ前年度ニ於テ工ヲ終ヘタルモノ則チ現在ノ建物ナリトス本所ノ建物ハ勉メテ外觀ノ裝飾ヲ避ケ實用ト堅牢ヲ旨トセル者ニシテ殊ニ本所ノ注意セルハ本所ヲシテ俗ニ所謂御役所風ナカラシメントスルノ点ニアリ故ニ本所ノ各室ヘ通ズル廊下ハ總テ之ヲ叩キ漆喰トナシ草鞋履キノ儘又ハ腰蓑ノ儘ニテモ容易ニ來タリテ用ヲ便セシムルノ方法ヲ取リ之ト同時ニ生徒ヲシテ實習ヲナサシムルニ便宜ナラシメン爲メ實習室ハ勉メテ其面積ヲ廣大ニセリ且實習用器具機械ノ配置ニ注意シタリ各室ノ配置ハ大要圖ニ示ス如クニシテ其面積及構造ノ大要左ノ如シ

一、宏堂　二階建階上　三十二坪五合
一、事務室　二階建階下　十五坪
一、應接室　二階建階下　六坪
一、宿直室　二階建階下　四坪
一、書類物置　二階建階下　二坪
一、教室　平家建　二十四坪
一、漁撈實習室　平家建　五十坪
一、漁撈監督室　平家建　六坪
一、職員食堂　平家建　十三坪五合
一、地中室　九坪
一、第一物置　平家建　二坪
一、第二物置　平家建　九坪
一、浴室　平家建　三坪七合五勺
一、職員便所　平家建　一坪五合
一、生徒便所　平家建　三坪七合五勺

一、製造實習室　平家建　七十二坪
一、製造監督室　平家建　九坪
一、材料室　平家建　六坪
一、機關室　平家建　十二坪二合五勺
一、乾燥室　平家建　四坪五合
一、鐵工室　平家建　八坪七合五勺
一、第三物置　平家建　十坪
一、調理場　平家建　十八坪
一、洗場　平家建　十二坪
一、小使室　平家建　六坪
一、炭小屋　平家建　三坪
一、寄宿舍　二階建　五十四坪
一、炊事場　平家建　十二坪二合五勺
一、洗面所　平家建　三坪
一、炊夫室　平家建　三坪

一、第四物置　平家建　二坪二合五勺
一、標本室　平家建　三十三坪
一、第五物置　平家建　四坪五合
一、廊下一切　平家建　六十九坪二合五勺

構内ノ植樹ハ構内ノ美觀ヲ添ユルノミノ目的ヲ以テセシニアラズ主トシテ之ヲ以テ生徒講習上ノ資料ニ供用スルト共ニ又タ風防火防日除波除ノ目的ヲ以テセル者ナルニヨリ一樹一卉ト雖モ之ヲ苟モセズ斯道大家ノ撰擇ヲ請フテ之ヲ植ヘタリ

三、實習ニ關スル設備

本所ニ於ケル生徒講習ノ目的ハ品性アリ而モ道理ヲ理解セル職工ヲ仕立テ修業後直ニ職業ニ從事セシムルニアリテ決シテ高尚ナル六ケ敷人物ヲ作ル目的ニアラザルナリ況ンヤ唯空理空論ヲ說テ實際仕事ノ出來ザル人物ハ本所ノ最モ嫌忌スル所ニシテ斯カル傾向ノナカラン樣指導スルコトハ本所ノ最モ苦心スル所ナリ故ニ實習設備ニ就テハ特ニ留意之ガ完成ヲ期シツヽアリ今左ニ項ヲ分テ現時設備ノ大要ヲ記サン

(一)漁撈科

漁撈科ニ於ケル試驗及實習設備ハ大要左記ノ如シ

(イ)漁船

○橋立丸(日本型漁船)

大分縣式ニシテ杉材ヲ以テ作リ梁及帆柱ハ檜床ハ松材ヲ用ユ內部ハ總甲板ニシテ鉢蓋十枚ヲ備フ

一、肩巾　九尺三寸　一、敷長　二丈六尺
一、總長　三丈五尺　一、中棚開胴梁　九寸五分
一、中棚開艫梁　九寸　一、中棚開舳梁　九寸
一、中棚巾　三尺五寸　一、敷巾前　三尺
一、敷巾後　二尺一寸　一、艫立　二寸
一、舳長　一丈三尺　一、舳立　九寸五分
一、深サ　三尺五寸　一、まつら　十二本
一、戸立　六枚　一、梁　五本
一、帆柱　三本　一、失帆柱　一本
一、艪　五挺　一、舵　一挺

進水　明治三十七年六月八日

船匠　大分縣北海部郡佐賀關町　佐藤喜三郎

○大島丸(日本型漁船)

構造材料ハ杉ニシテ敷ノ一部ヲ松ニテ作リ大体ノ構造ハ竹野郡地方ニ於テ「さんば」ト稱シ鯛一本釣ニ用ユル漁船ノ中梁ヲ取リ除キテ艫舳ニ各一個ノ梁ヲ取リ付ケ裝帆ハ舳梁ヲ以テシ西洋縦帆ヲ用ユ内部ハ艫舳兩梁ノ兩端ヲ甲板張トシ鉢蓋各一枚ヲ備フ中央部ハ全体ニ普通板張トス

一、肩巾	四尺八寸	一、敷長	一丈七尺五寸
一、總長	二丈五尺三寸	一、敷巾	一尺九寸
一、深サ	一尺九寸	一、梁	二本
一、戸立	三枚	一、まつら	四本
一、艫	二挺	一、帆柱	一本
一、舵	一挺		

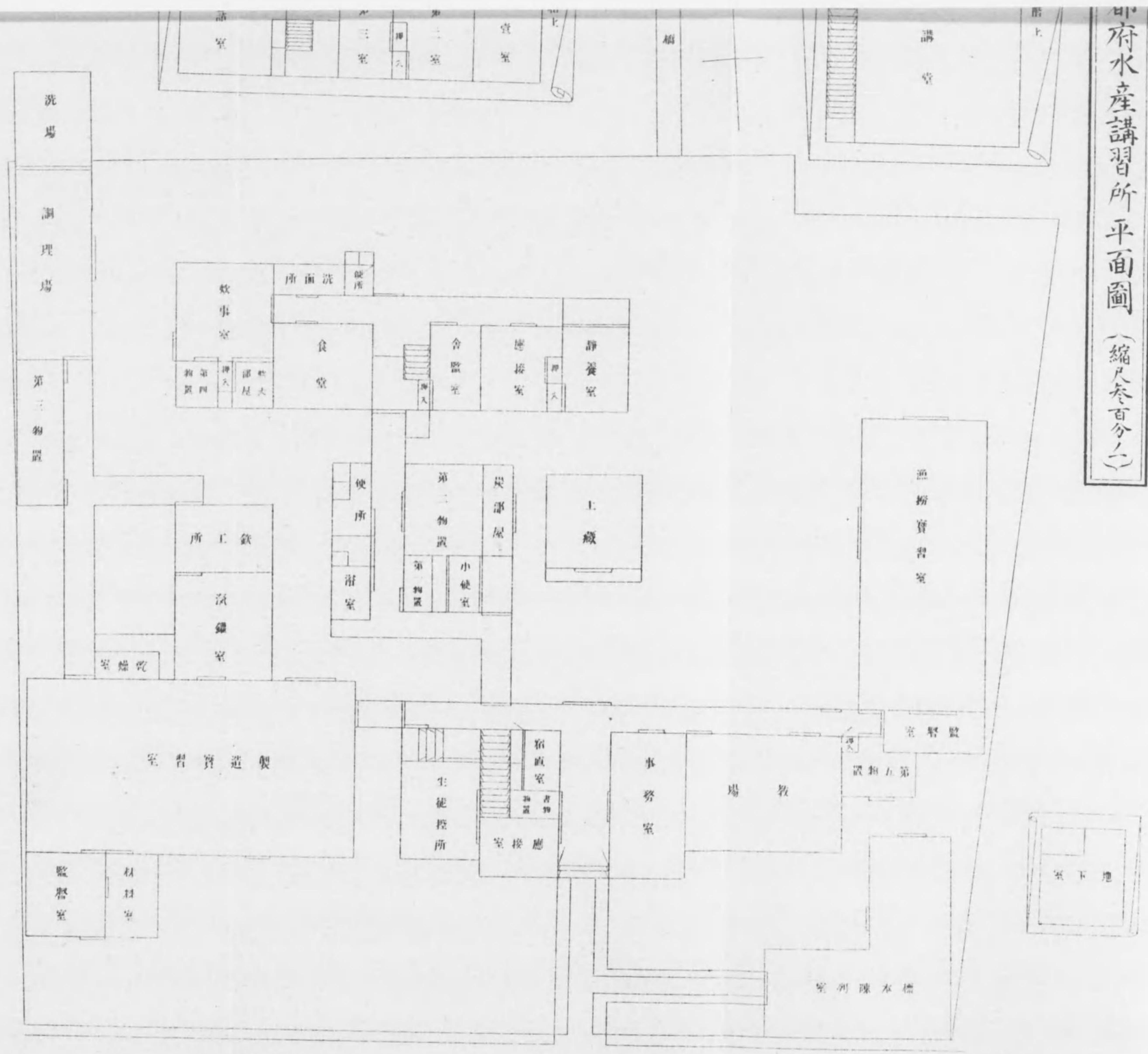
進水　明治四十年二月十四日

船匠　京都府竹野郡間人村　下岡仙藏

○嘉丸(日本型漁船)

京都府水産講習所

都府水産講習所平面圖（縮尺參百分ノ一）



一、艙　二挺
一、舵　一挺
一、まつら　四本
一、帆柱　一本

進水　明治四十年二月十四日
船匠　京都府竹野郡間人村　下岡仙藏

○嘉丸（日本型漁船）

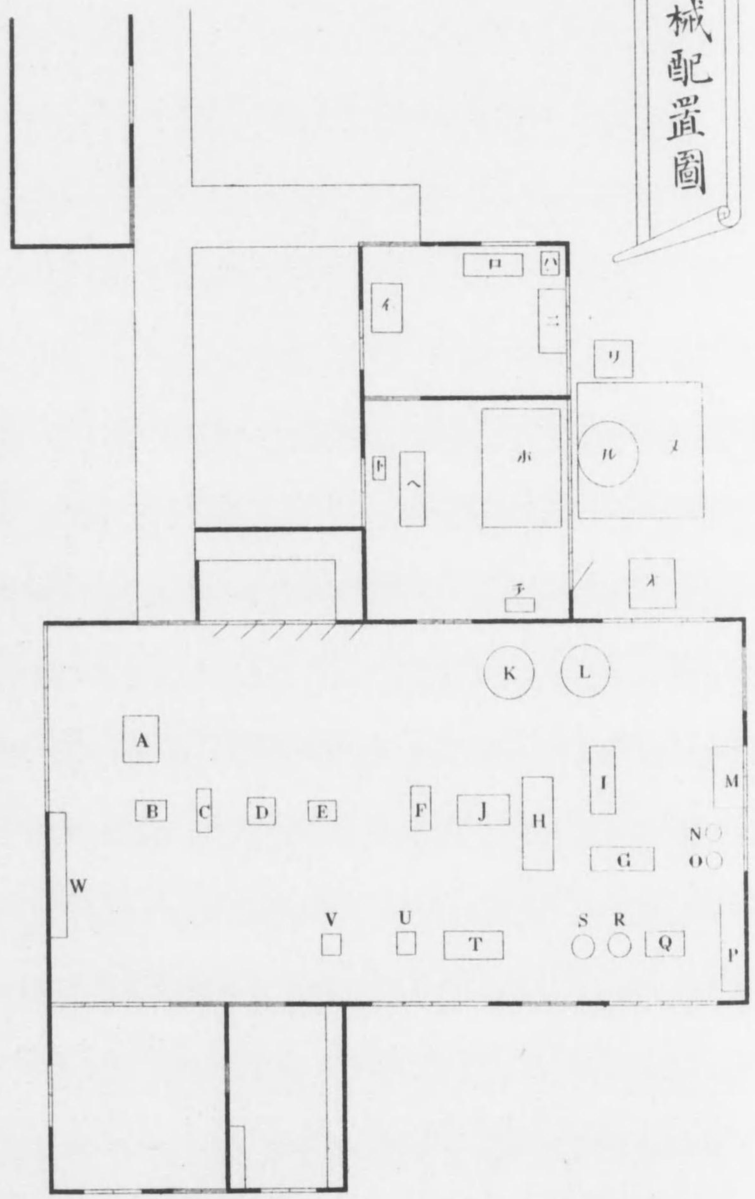
製造實習室器械配置圖

(イ)鑢
(ロ)レース
(ハ)ドリルメシン
(ニ)作業臺
(ホ)沉　鑵
(ヘ)沉　機
(ト)ウオーシントンポンプ
(チ)(リ)煙筒
(ヌ)水タンク
(ル)井　戸
(オ)(メ)桃　水

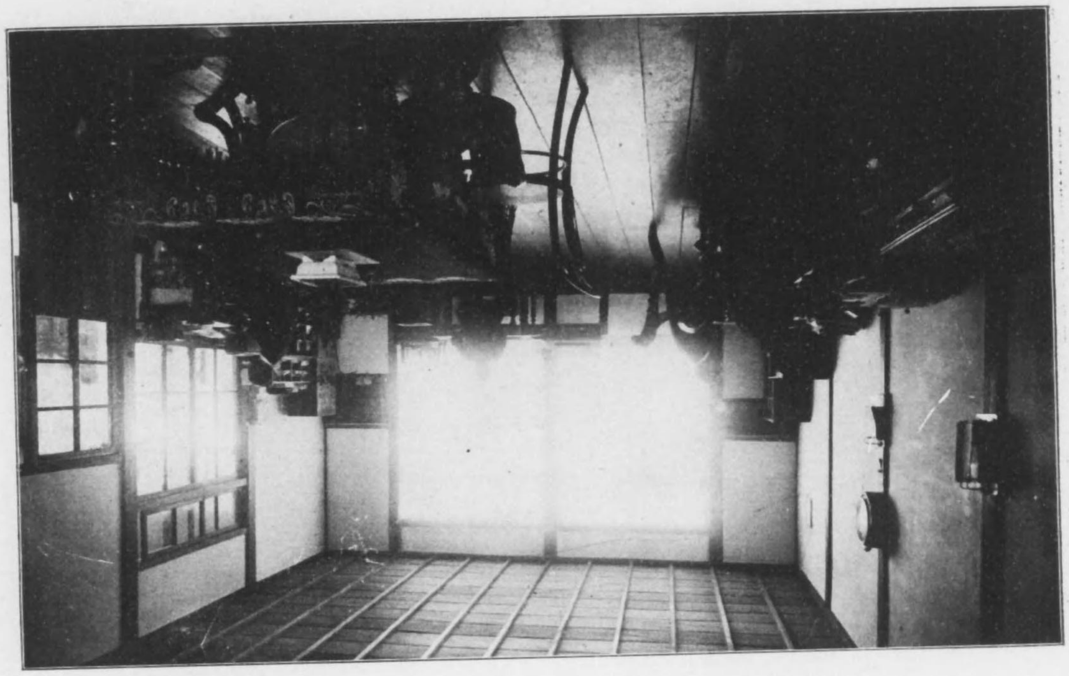
(A)グブルシイミレグメシン角鑢用
(B)仝上円鑢用
(C)ゴムカツター
(D)パワープレス
(E)フレンヂングメシン
(F)肉　堵　器
(J)
(H)蠅張戸棚
(I)須
(G)仝　上
(K)普通釜
(L)蒸　釜
(M)洗　槽
(N)
(O)二重釜
(P)料理戸棚
(Q)クックストーブ
(R)
(S)二重釜
(T)焼　床
(U)壜口メ器
(V)ゴム付器

造實習室器械配置圖

(A) グブルシイミレグメシン角鑪用
(B) 仝上円鑪用
(C) ゴムカッター
(D) パワープレス
(E) フレンチングメシン
(F) 肉壜器
(G) 仝上
(H) 蝋張戸棚
(I) 俎
(J) 蒸釜
(K) 普通釜
(L) 洗槽
(M) 二重釜
(N) 料理戸棚
(O) クックストーブ
(P) 二重釜
(Q) 焼床
(R) 壜口メ器
(S) ゴム付器
(T) 井戸
(U) 煙筒
(V) ウオーシントンポンプ
(W) 沉鑵
(X) 沉機
(Y) 作業臺
(Z) レース
(イ) 水タンク
(ロ) 排水
(ハ) ドリルメシン
(ニ) 鑵



車 級 馬



接　待　廳

第五

談內舍宿寄徒生

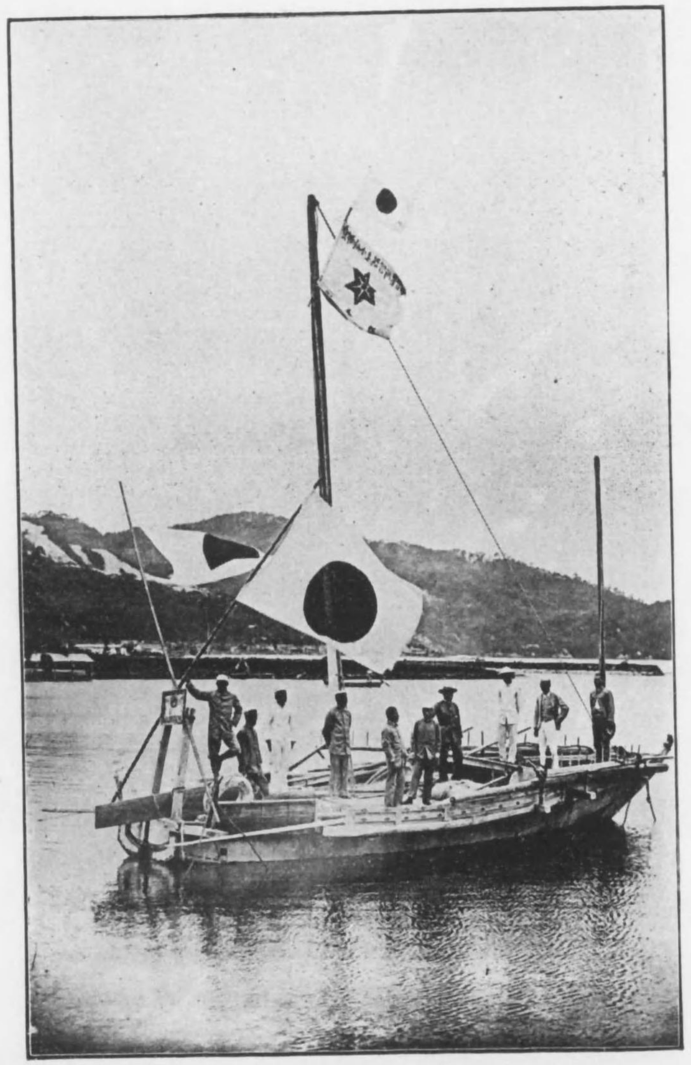
部一ノ部内室列陳本標

漁撈實習室

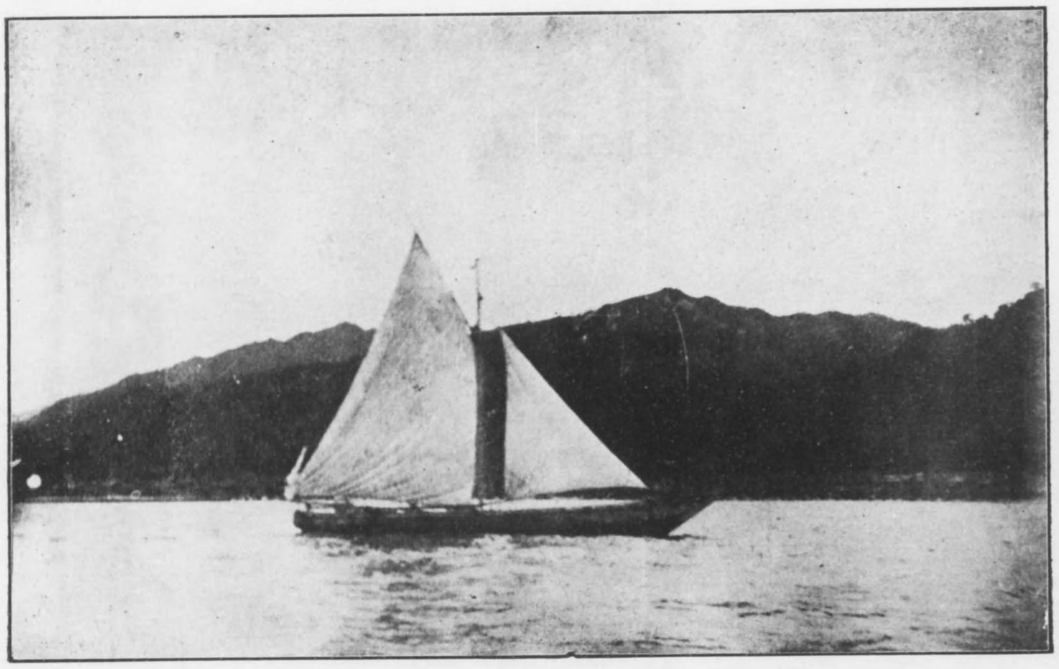
実習實造製

鐵圓機　第五內部

鍛工部内宝



丸　立　橋



大　島　丸

九　嘉　船機動發油石

千葉縣鮪流網漁船ニ改良ヲ加ヘ材料ハ杉ニシテ梁ハ椎材、檣ハ檜材、床ハ松材ヲ用ユ内部ハ網積場ヲ除クノ外總テ甲板張ニシテ鉢蓋六枚ヲ備フ

一、肩巾	一丈	一、敷長	三丈三尺
一、總長	四丈	一、中棚開胴梁	九寸七分
一、中棚開艫梁	九寸	一、中棚開舳梁	八寸六分
一、中棚巾	三尺八寸	一、敷巾前	三尺五寸
一、敷巾後	三尺	一、艫立	二寸五分
一、舳長	一丈五尺	一、舳立	九寸
一、深サ	三尺三寸	一、まつら	六本
一、戸立	六枚	一、梁	六本
一、帆柱	三本	一、失帆柱	一本
一、艙	七挺	一、舵	一挺

進水　明治四十一年五月二十日

船匠　京都府竹野郡濱詰村　岡本龍吉

之ヲ前年度末福井縣下小濱富士造船所ニ於テ船体一部ノ修理改造ヲ加ヘ石油發動機船

トシテ適當ノ構造トナシ之レニ大阪市清水鐵工所製作ニ係ル十五馬力石油發動機ヲ据

ヘ付ケタリ改造後ノ大サ左ノ如シ

一、量噸甲板下ノ長サ　四十九尺五寸
一、中央ノ巾　九尺九寸
一、中央ノ深サ　三尺四寸
一、總噸數　十噸一三

（ロ）船具

船具　十八種　九十四個

（ハ）漁具

一、鮪流網　五十二把
一、鰆流網　四十七把
一、藻曳網　一統
一、海鼠桁網　一統
一、手繰網　一統
一、打瀬網　一統
一、捧受網　一統
一、鯖流網　五把
一、鰹延繩　十三籠
一、鯖延繩　六十籠
一、鯛蕩繩　十七籠
一、鯛延繩　九籠
一、こませ曳網　一統
一、烏介桁網　一統
一、鰤一本釣具　三個
一、鯛一本釣具　十個
一、烏賊一本釣　二十具
一、鯖一本釣　十二具
一、鰆漕釣具　三個
一、鯛一本釣具　四個
一、鰹擬餌釣　十五個

一、烏賊擬餌釣　五十個
一、鰤擬餌釣　五個
一、抄攪　二個
一、集魚燈　八個
一、抄網　一個

（ニ）器具

器具　百二十一種　六百二十七個

（二）製造科

製造科ニ於ケル試驗及實習設備大要左ノ如ク又タ其器械配置概要左圖ノ如シ

（イ）器械

○瀘罐

一、式　コルニッシュ
一、直徑　三呎六吋二分ノ一
一、長　八呎
一、フリュー徑　二呎一吋
一、胴板　八分ノ三吋厚
一、端板　二分ノ一吋厚
一、馬力　六馬力半
一、マンホール徑　一呎五吋

一、カバ　一吋四分ノ一厚
一、リベット　四分ノ三吋
一、容積　十二石
一、常用容積　八石
一、常用瀘厭　八十磅
一、購入先　大阪高等工業學校

○瀘機

一、種類　横置
一、シリンドル　五吋半
一、ストローク　十吋半
一、馬力　十馬力
一、購入先　大阪高等工業學校

器械　二十九種　四十六個

（ロ）器具

器具　二百三十五種　二千八百四十三個

（三）養殖科

養殖科ハ本所創設當時本府葛野郡桂村ニ鯉兒孵化場ヲ設ケ諸般ノ設備ヲ整ヘ毎年多數ノ鯉兒ヲ孵化セシメ之ヲ本府内各地ヘ配布スルノ傍ラ生徒ニ鯉兒孵化ノ方法ヲ講習シ延テ稲田養鯉ノ方法及池沼養鯉ノ方法ヲ各地ニ勸誘シタル結果爾來著シク養鯉事業ノ

隆盛ヲ見ルニ至リ本所第一ノ目的ヲ達セルヲ以テ一時此事業ヲ中止シタリ其後本所ニ於テハ諸種水産養殖試驗及講習ノ必要ヲ認メ之ガ設備ヲ急ギ居レルモ未ダ其意ヲ遠セズ從テ養殖科試驗及講習ハ殆ンド中止ノ姿ニアリ設備亦タ甚ダ微々タルモノトス

（イ）器具

器具　十一種　二十九個

第四章　實習

一、本所實習

本所ニ於テ生徒ヲ講習スルノ目的ハ品性アル道理ヲ理解セル職工ヲ養成スルニアルヲ以テ其講習方法ノ如キ全ク實地ニ就キ技術ヲ講習スルヲ先トシ學理ノ講習ヲ後ニスルノ方法ヲ執レリ由來學理ヲ實地ニ應用スルノ必要ハ云フベクシテ行フコト甚ダ困難ナル一事ニ屬ス況ヤ本所ノ如キ短期間ニ於テ水産ニ關スル一般ノ技術ヲ授ケントスル所ニ於テハ之ヲ實地ニ應用スベク深遠ナル學理ヲ完全ニ講習スルコトハ到底行フベカラザルヲ覺知セルニヨリ實習ニヨリ起ル疑問ハ不得止之ヲ學理上ヨリ説明スルモ成丈學科ノ講習ヲ避ケ實地ノ技術ヲ練磨セシムルニ務メ居レリ

本所ガ本年度ニ於テ製造科各科及ビ漁撈科生徒ニ講習シタル實習種目並ニ概數ヲ左ニ

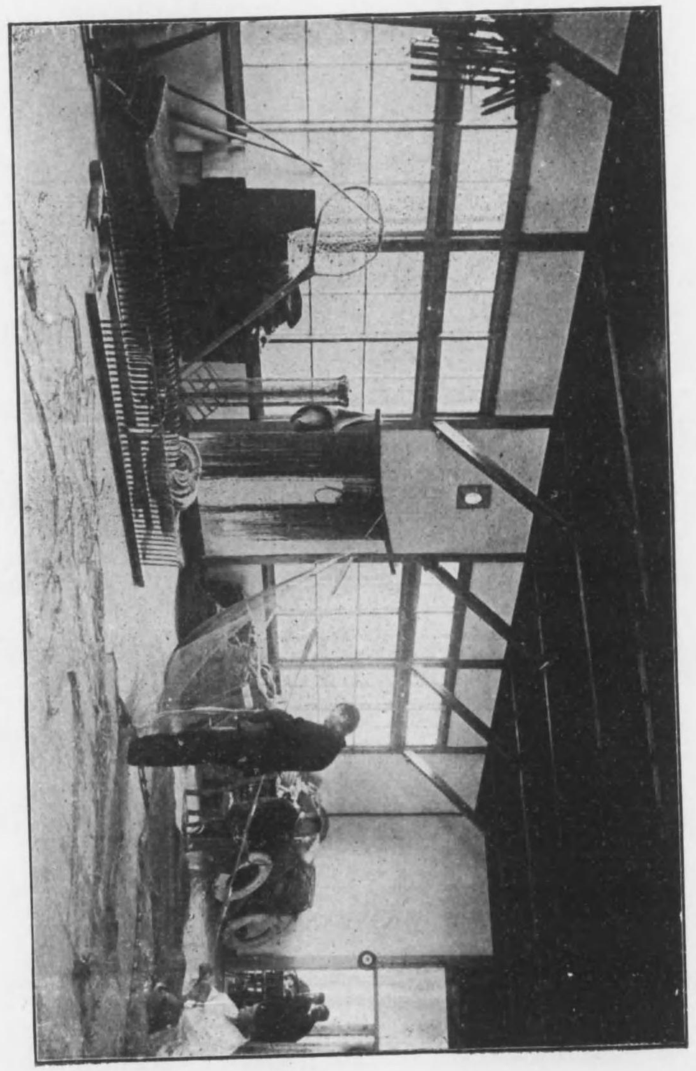
表示シ以テ本所實習ノ内容ヲ更ニ明ニス

（一）製造科生徒實習種目及概數

科目	種類	實習回數	科目	種類	實習回數	科目	種類	實習回數
罐詰類	三	九	調味小魚類	四	四			
魚味噌類	一	二	塩辛類	一	一			
醋漬類	二	一	魚田麩類	三	六			
魚煎餅類	二	三	燻製魚類	二	三			
蒲鉾類	四	一三	壜詰品類	三	四			
塩乾魚類	四	七	精塩類	一	一			
素乾魚類	三	八	精油	二	三			
煮乾魚類	二	四	製用材料	一〇				
塩藏品類	二	二	料理	二	七			
佃煮類	一	二	製鑵	一四				

(二)漁撈科生徒實習種目

西洋型漁船航海及運用法
石油發動機使用法
日本型漁船運用法
索具製法及索具取扱法
手旗信號
海圖使用法
漁船構造
網保存法
篝火器使用法
擬餌鈎及鈎各種製作法
鯖一本鈎製作及實習
鯛一本鈎製作及實習
鰤一本鈎製作



漁撈實習 (其一)

（二年）　習實捕漁

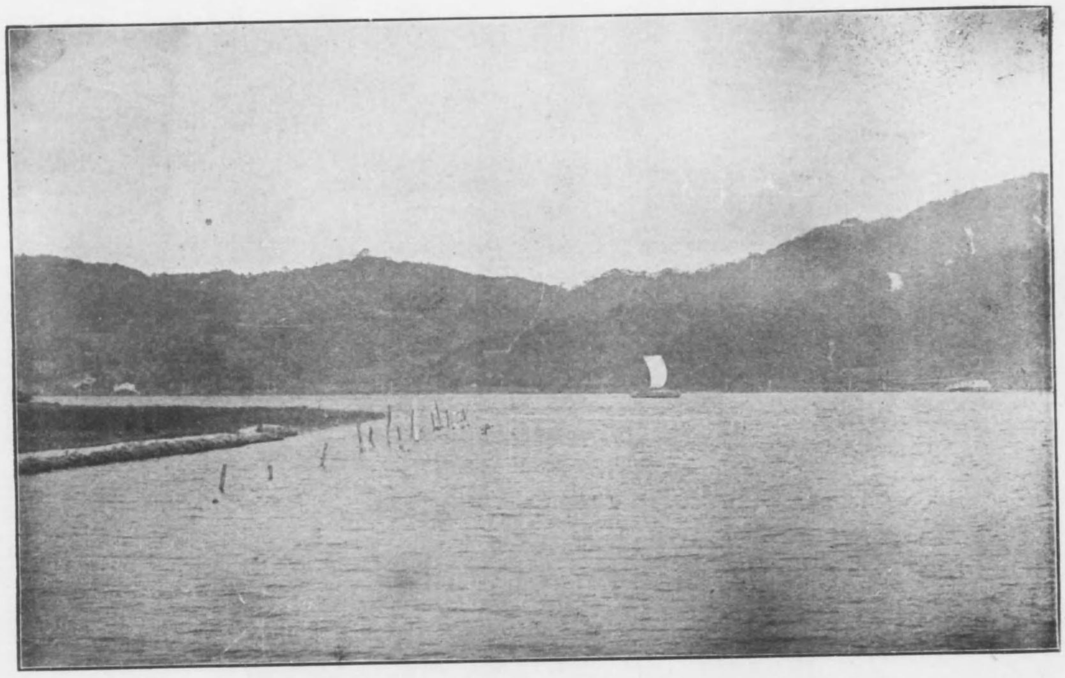
漁場實習（其三）

製造實習（其一）

（二 并）　習實造製

製造實習（主）（三年）

幻　城　亜　細　亜　劇



本所牡蠣蓄殖試驗場（與謝郡吉津村字須津）

鰹一本鈎製作
鰆延繩製作及實習
鰹延繩製作及實習
鮪延繩製作及實習
鯖延繩製作及實習
鰮立鈎製作
玉筋魚抄漁具製作及實習
鰤大敷網製作及實習
手繰網製作及實習
鰈手繰網製作及實習
鮪流網製作及實習
鮪流網製作及實習
鰮刺網製作及實習
鰮延繩製作及實習
鯛延繩製作及實習
漁船構造

所外講習

二、所外講習

本所ノ講習ハ常ニ實習ニ重キヲ置ケリ寧ロ本所ノ講習ハ實習ノミノ講習ト云フベキ現狀ニシテ修業後直ニ之ヲ實地ニ應用シ得ルノ技量ヲ具備セシメントスルニアリ故ヲ以テ實習ニ於テハ殆ンド遺憾ナキヲ期スト雖モ尙ホ修業後自家經營トナサンニハ大ニ別ニ修養ヲ要スル者アリ或ハ藥用品製造ノ如キ或ハ本所備付ケナキ漁具實習ノ如キ本所ニ於テ講習シ得ザル者ノ講習ヲ特ニ希望スル生徒ノ爲メニ前々年度ヨリ新タニ所外講習ノ制ヲ設ケタリ其ハ各地ニ於ケル信用技量及名望アル專門實業家ニ請フテ或ル期間生徒ヲ托シ其人ニ就テ親シク毎日ノ營業振リ及技術ヲ習得セシムルニアリ

(一)、所外講習生撰定內規

一、所外講習生トハ本所本科生徒ニシテ本所ニ於テ講習ヲ受ケタル或科目又ハ本所ニ於テ講習セザル或科目ヲ特ニ多クノ經驗ヲ有セル營業者ニ就キ研究センガ爲メ本所以外ニ居住スル者ヲ云フ

一、所外講習生ハ左記資格ヲ有セル者ニシテ其出願科目ノ當否ヲ糺シ所長之ヲ決定スルモノトス

一、一ヶ年以上本所ニ於テ講習ヲ受ケタル者ニシテ現時尙ホ本科生ノ資格ヲ有スルモノ

一、最初一ヶ年間ノ成績佳良ナルモノ

一、志望確實身体强健品行端正ナルモノ

一、學資金ノ支給極メテ確實ナルモノ若クハ命ゼラレタル學資金ヲ一時ニ所長ニ預ケ入レ得ルモノ

一、所外講習生ノ撰定ハ毎年六月トス

一、所外講習生ノ研究期間及研究地ハ所長之ヲ定ム

一、所外講習生ノ研究志望科目數種ニ渉ル時ハ所長ハ深ク本人ノ志望ヲ調査シ之ヲ取捨ス

(二)、所外講習生出願手續及心得

一、所外講習生タラントスル者ハ左記資格ヲ有スルヲ要ス

一、一ヶ年以上本所ニ於テ講習ヲ受ケタル者ニシテ現時尙ホ本科生ノ資格ヲ有セルモノ

一、最初一ヶ年間ノ成績佳良ナルモノ

一、志望確實身体强健品行端正ナルモノ

一、學資金ノ支給極メテ確實ナルモノ若クハ命ゼラレタル學資金ヲ一時ニ所長ニ預ケ

入レ得ルモノ

一、所外講習生タラントスル者ハ其研究志望ノ科目ヲ認メ出願スベシ

一、所外講習生ノ出願期日ハ毎年六月トス

一、所外講習生ノ研究期間及研究地ハ所長豫メ之ヲ定メ派遣スト雖モ其研究期限内ニ於テ都合ニ依リ又ハ所長ノ見込ニヨリ其期間ヲ伸縮シ又ハ研究地ヲ變更シ又ハ本所ニ召還スルコトアルベシ

一、所外講習生ハ毎月一日及十五日ノ兩日付ヲ以テ研究ノ實況及學資仕拂ノ精算書ヲ所長ニ報告スベシ

一、所外講習生ハ其指定セラレタル科目ノ研究ヲ終ル毎ニ其研究セル狀況ヲ認メ所長ヘ報告スベシ

第五章　講話及設計

本所職員ハ管内何レノ地ニ出張スルモ少シク閑アレバ即チ當業者ヲ集メ永產ニ關スル事項ヲ講話スルヲ常トス殊ニ近時特ニ本所職員ノ出張講話ヲ請フモノ多ク一時非常ノ繁忙ヲ極メタリ

一、出張講話　丹後沿岸各漁村競フテ新規漁具ノ布設ヲ計畫シ又ハ從來ノ漁具ヲ改良セ

ントノ傾向切リニ起リ之ヲ十年以前ノ舊慣保守ノ外更ニ念頭ナキ丹後漁村ニ比較スル時ハ實ニ其差霄壤モ啻ナラズ之レ實ニ丹後漁業ニ一大革新ヲ起スベキ好機ナルベシト考フルヲ以テ本所ハ務メテ所員ヲ沿岸漁村ニ派遣シ以テ漁業ノ講話ニ務メ殊ニ漁村ヨリ出張講話ヲ願ヒ出ヅルモノアル時ハ進デ之ヲ承諾シタリ

一、漁場鑑定及新規漁具設計　各漁村ニ於テ漁具改良ノ結果其新規漁具ノ設計ヲ本所ニ願ヒ出ヅルモノ多シ本所ハ講習及試驗實施ノ都合上悉ク此依賴ニ應ズルコト能ハザリシモ可成之ニ應ズルノ方針ヲ執リシヲ以テ其數甚ダ多シ

第六章　生徒

一、在學生徒

○本科

漁撈科（四名）

田中米次郎　京都府平民
熊澤長男　高知縣平民
柴田義寛　福岡縣士族
小島重吉　京都府平民

製造科（七名）

城生長松　京都府平民
足立慶次郎　京都府平民

平林林治　京都府平民
今森順次　京都府平民
木元延太郎　京都府平民

○特別講習生

漁撈科（二名）

福田はる　京都府平民

製造科（二十七名）

野村虎一　京都府平民
有田平治　愛媛縣平民
山下源藏　京都府平民
石橋時藏　京都府平民
阪根安藏　京都府平民
倉橋與吉　京都府平民
田畑彌吉　京都府平民
川邊庄次郎　京都府平民
平尾萬吉　京都府平民
丸山義堅　京都府平民
小西たか　京都府平民
池内峰藏　京都府平民
岡保秀治　京都府平民
谷口節三　京都府平民
小谷悌吉　京都府士族
岩脇治郎　三重縣平民
高野儀三郎　京都府平民
高本孫三郎　京都府平民
西村梅吉　京都府平民

市川德藏　京都府平民
砂原庸一郎　京都府平民
岩田榮吉　京都府平民
綿井くら　京都府平民
和田順藏　京都府平民
柚長綠郎　京都府平民
小仲瀧藏　京都府平民
中川松藏　京都府平民
岩田武雄　京都府平民
秋田信次郎　京都府平民
西垣茂右衛門　京都府平民

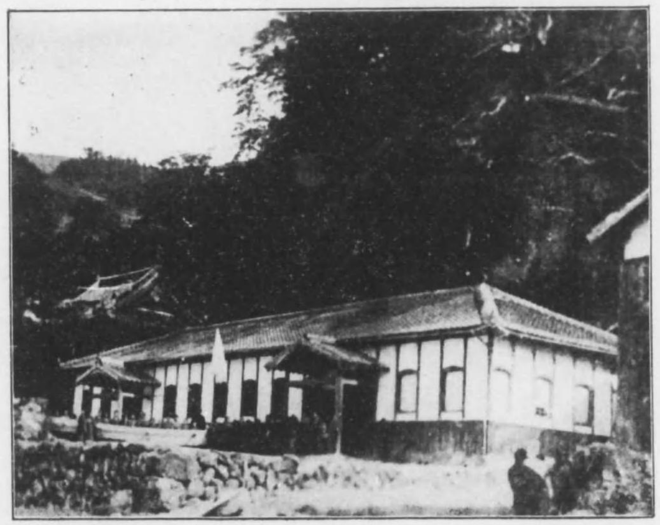
二、修了生狀況

（一）修了生徒地方別表

地方別＼科別	漁撈製造養殖兼修	漁撈科 本科	漁撈科 別科	漁撈科 特別	製造科 本科	製造科 別科	製造科 特別	養殖科 別科	計
京									
與謝郡	二三			二六	三六				一二九
	×一	×一	×一	×一	×八	×一	一二		×四
加佐郡	一二	⋮	×一九	⋮	×二九	×一五	×一〇	⋮	×四三八
竹野郡	一九	二	⋮	二	×一四	×一四	×一一	⋮	×三四六
熊野郡	五	二	×六三	一	×一五	二	一二四	⋮	×三四八

都府																
京都市	南桑田郡	愛宕郡	葛野郡	天田郡	計	新潟縣	愛媛縣	高知縣	兵庫縣	愛知縣	三重縣	和歌山縣	廣島縣
					×五九一								
					×一七								
					二六一七								
					×二一九								
三					×一五二七	一			×一六	一	×一一	二	
×一一	一				×一四一八								
×二二					×二四一九		一		一		×三九		
	一	一			二								
×二六	二	二	一	一	×二六七九	一	一	一	×一七	一	×一〇四	二	一

徒生學在



修了生古板國之助ノ經營セルヲ愛媛縣田ノ濱水產補習學校

修了生山村松藏店舗

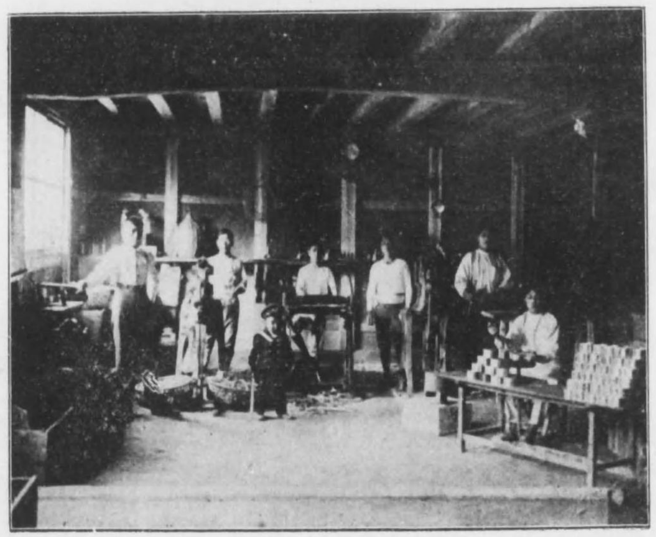
修了生羽淵平吉店舗

修了生矢谷重吉店舗

修了生井上重吉店舗

修了生前田庄吉店舗

塲工造製詰罐藏金谷上生了修



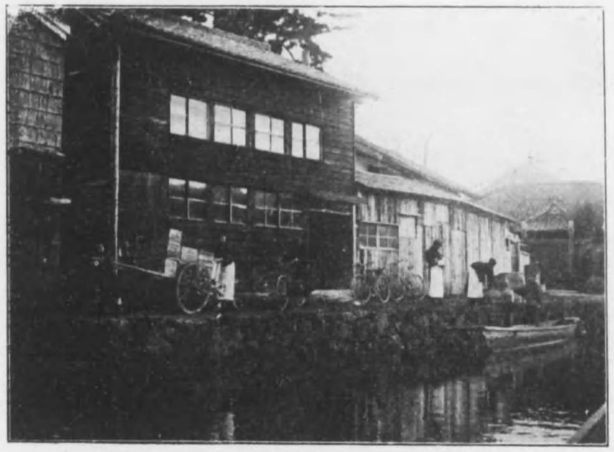
上谷罐詰製造工塲內部

長崎縣	岡山縣	福井縣	岐阜縣	嚴手縣	福岡縣	島根縣	合計
…	…	…	…	…	一	…	五九 ×一
…	…	…	…	一	×一一	…	九 ×二
…	…	…	…	…	…	…	二六 ×七
…	…	…	…	…	…	…	二九 ×一
…	…	一	×一一	…	…	…	七 ×一五〇
…	…	…	×一	…	…	…	四六 ×一九
一	×一一	一	×一	一	…	一	五八 ×三四
…	…	…	…	…	…	…	二
一	×一一	二	×三一	一	×一一	一	二九 ×七九

備考 ×印ハ一人ニテ二回以上修業シタル員數ヲ掲ゲリ

(二) 修了生徒年度別科別表

年度別 ＼ 科別	漁撈製造兼修養殖	漁撈科 本科別	漁撈科 特別	製造科 本科別	製造科 特別	養殖科 別科	計
明治三十二年	一三	…	…	…	…	…	一三
同 三十三年	一五	…	…	一二	…	二	三二
同 三十四年	一四	一八	…	七	…	…	三九



修了生西垣久四郎及ビ谷口利一ノ經營セルヲ久美濱罐詰所

(三)修了生徒職業別科別表

職業別＼科別	漁撈製造養殖兼修	漁撈科 本科	漁撈科 別科	漁撈科 特別	製造科 本科	製造科 別科	製造科 特別	養殖科 別科	計
漁業	一二	五	一九	一二	七	⋮	二	⋮	五七
水産製造業	三	⋮	⋮	⋮	一八	一九	三八	⋮	七八
漁業兼農業	一〇	一	六	一三	一	一	⋮	⋮	三二
同 三十五年	一八	⋮	八	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	三二
同 三十六年	⋮	二	三	⋮	八	二〇	一一	⋮	三三
同 三十七年	⋮	⋮	⋮	⋮	一二	一二	⋮	⋮	四二
同 三十八年	⋮	⋮	⋮	⋮	一二	六	二四	⋮	五八
同 三十九年	⋮	⋮	⋮	二八	一八	⋮	一二	⋮	二一
同 四十年	⋮	⋮	一	⋮	一〇	二	八	⋮	二〇
同 四十一年	⋮	⋮	⋮	⋮	九	⋮	七	⋮	一六
同 四十二年	⋮	⋮	⋮	⋮	六	六	四	⋮	三七
同 四十三年	⋮	三	三〇	⋮	八五	六五	九二	⋮	三七八
合計	六〇	一一	三三	二	一一	一	⋮	⋮	三二

職業別＼科別	漁撈製造養殖兼修	漁撈科 本科	漁撈科 別科	漁撈科 特別	製造科 本科	製造科 別科	製造科 特別	養殖科 別科	計
漁業兼商業	一	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	一
水産物販賣業	一	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	二
水産製造所技術員	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	四
商業	二	⋮	⋮	⋮	九	一	二	⋮	一四
漁業兼水産製造業	⋮	⋮	⋮	⋮	七	八	一	⋮	一九
水産養殖及農業	⋮	⋮	⋮	⋮	三	⋮	二	⋮	六
本所研究中	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	二
官公吏	二	一	一	⋮	一	⋮	⋮	⋮	五
印刷業	一	⋮	⋮	⋮	三	⋮	⋮	⋮	三
編網工	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	一
水産關係官公吏	三	一	⋮	二	六	⋮	⋮	⋮	一〇
小學校教員	二	⋮	⋮	⋮	一	一	⋮	⋮	五
學生	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	一
商店員	五	⋮	⋮	⋮	六	一	二	⋮	一四

在米國	二	…	…	…	…	…	…	…	…	…	二
船員	一	一	…	…	…	…	…	…	…	…	二
入營中	七	…	…	…	四	一	一	…	…	一三	九
不明	…	…	…	…	二	三	四	…	…	…	二
死亡	七	…	…	二	二	八	一	…	…	二	二一
計	五九	九	二六	二九	七〇	四六	五八	二			二九九

第七章　試驗事業

本所ニ於テ漁撈水產、製造及水產養殖ニ付キ廣ク試驗ヲ實行スルノ目的ハ其試驗ノ結果ヲ本所生徒講習ノ資ニ供スルコト勿論ニシテ又タ其結果ヲ廣ク世ノ當業者ニ知ラシメ以テ利益ノ增進ヲ圖ラントスル者ナリ今左ニ各部ニ於テ本年度實施セル試驗事業ノ概況ヲ記ス

一、漁撈部

（イ）鮪流網及鮪延繩試驗

一、鮪流網試驗ハ前年度來ノ繼續事業ニシテ其試驗方法前年度ト異ナルコトナシ延繩試驗ハ流網試驗中實施シタルモノニシテ漁船漁夫等皆流網試驗ト異ナルコトナシ

二、該試驗ヲ施行シタル場所ハ

自能登國舳倉島以西　至但馬國餘部崎以東

該試驗ヲ施行シタル期間

自明治四十三年五月二十八日　至同年七月十一日　四十五日間

三、驗試實施ノ方法ハ前年度ト別ニ異ナルコトナク船ハ本所實習船（肩巾一丈一尺大分縣日本型漁船）網及延繩ハ千葉縣地方ニテ用イ居ルモノト異ナルコトナシ乘組員本所職員一名及漁夫二名幷ニ宮津町ヨリ雇入レタル漁夫六名ニシテ行ヒ鮪ノ來游スルモノナルヤ又流網及延繩ニテ漁獲シ得ヘキヤヲ試驗セリ

四、試驗ノ結果モ前年度ト異ナリタル點ヲ認ムル能ハズ鮪ノ來游ハ確實ニ認メタレモ未ダ漁獲シ得ラルヽヤ否ヤハ斷定シ難シ

五、鮪ノ來港ハ確カニ認メタレモ其捕獲ノ不確實ナルハ未ダ漁夫ノ不熟練ノ點モアルヘク又漁船ノ日本形ニシテ荒天ニ堪ヘ兼テ且ツ長ク沖合ニ躊躇シ居ル能ハサルノ欠點ヨリ來ル點モアルヘキニ付四十四年度西洋形漁船ノ新造ノ上ハ尙ホ繼續シテ充分該

試驗ヲ行ハントス

（ロ）鰆流網試驗

一、鰆流網試驗ハ前年來ノ繼續事業ニシテ其方法前年度ト異ナルコトナシ

二、該試驗ヲ實施シタル場所

京都府與謝郡栗田村沿岸ヨリ但馬國城崎郡津居山港ニ至ル沿岸

該試驗ヲ實施シタル期日

三、自明治四十三年九月十八日　至同年十一月十三日　五十七日間

四、試驗實施方法ハ前年度ト同シク船ハ本所實習船肩巾一丈一尺ノ大分縣式和船ヲ用ヒ本所職員一名監督シ漁夫九名乘艜シ網ハ四寸目百掛十七尋ヲ一反トシ四十七反ヲ以テ試驗ヲ實施セリ

四、試驗ノ結果内灣ニ來游シ來ルモノハ捕獲シ難ク其結果不良ナリシカ津居山沖合ニ於テ實施シタルニ比較的外海ノモノハ漁獲アリテ成績トシテ見ルベキモノアリ後來望ヲ屬ス

五、該試驗ハ前半ハ内灣ニ試ミ後半ヲ以テ外海ニ試ミシヲ以テ外海ニテ實施シタル片ハ天候不良出漁日數少ナク爲メニ完全ニ試驗ヲ實施スルニ至ラズ故ニ將來尙ホ同方法

ヲ以テ外海ニ於テ該試驗ヲ實施セントス欲ス

（ハ）鰛本目刺網試驗

一、鰛本目刺網試驗ハ在來本府下ニテ鰛刺網ハ盛ンニ使用シ居ルモ其網地ハ「カヘルマタ編網」ニテ之ノ網地ヲ求ムルニ當業者非常ニ困難ヲ感ジ或ハ各方面ヨリ非常ノ高價ヲ以テ求メ又ハ各當業者ノ家族閑暇ヲ利用シテ自ラ編網スルモノニシテ其不便尠カラズ故ニ本目編キヲ以テ之レニ代用セバ其原料ヲ得ル容易且ツ廉價ニ購入シ得ラルヽヲ以テ本目網ニテ漁獲シ得ラルヽヤ否ヤヲ試驗セシナリ

二、該試驗ヲ實施シタル場所ハ本府下ニテ專ラ該漁業ヲ營ミ居ル經ケ岬以東ヨリ伊根村養老村ニ至ル沿岸ヨリ沖合四五哩間

該試驗ヲ實施シタル期日ハ明治四十三年五月八日ヨリ仝年五月二十六日ニ至ル十九日間

三、試驗方法ハ本目網地ヲ以テ從來當業者ガ使用シ居ルモノト同一ノ構造ニナシ船及人員モ同一トシ且ツ職員一名本所ヨリ乘組ミ之レガ指揮ヲナシタリ

四、該試驗ノ成績ハ其目的ヲ達スルヲ得良好ナリシガ試驗期間ノ短少ト當業者非常ニ多ク漁場狹少ヲ感ジ意ノ如キ好漁場ヲ得ザリシ爲メ漁獲ハ少カリシガ本目編網ヲ以テ

スルモ鰛刺網ニ差支ナキヲ認メタリ

五、本試驗ハ尙ホ之レヲ當業者ニ確認セシムル爲メ多クノ漁獲ヲ揚ゲ實見セシムル必要アルヲ以テ將來尙ホ繼續シテ實施セント欲ス

且ツ在來使用シ居ル網ハ二百二十掛一反ナルヲ以テ其ノ巾狹ク爲メニ鰛ノ網下ヲ游泳シテ逃逸スルモノ多キヲ認メシヲ以テ將來實施セントスル網ハ巾ヲ廣クシテ三百掛以上タラシメント欲ス

（ニ）鯛浮延繩試驗

一、在來本府下ノ鯛延繩漁業ハ皆底繩ヲ用ヒ居ルヲ以テ其作業困難ナリ然ルニ鯛ハ產卵時期浮游スルヲ以テ其時浮延繩ヲ以テセバ作業容易ナルノミナラズ其時鯛ノ運動敏活ナルヲ以テ求餌力增進シ爲メニ多クノ漁獲ヲ得ルヲ以テ之レヲ奬勵セント欲シ本府下ニ於テモ浮繩ヲ使用シ得ラルヽヤ否ヤヲ試驗セシナリ

二、本試驗ヲ實施シタル場所ハ本府下經ケ岬以東伊根ニ至ル海深四十尋內外ノ所

本試驗ヲ實施シタル期間ハ明治四十三年五月廿七日ヨリ仝年五月二十日ニ至ル二十五日間

三、本試驗ニ使用シタル漁具ハ在來當地方ニテ使用シ居ル底延繩ト同一ノモノニシテ船

ハ本府下ニテ使用シ居レル艫太船ヲ用ヒ之レヲ使用スルニ海深四十尋內外ノ所ニ於テ海面ヨリ二尋ノ所ヨリ二十尋ノ所迄ニ行ヒタリ漁夫トシテ乘組ミタルハ二名ニシテ在來ノ底延繩ヲ業トシ居ルモノヽ內ヨリ熟練ノモノヲ選ビタリ

四、試驗ノ結果ハ未ダ充分良好ナリト云フヲ得ザレモ浮繩ヲ以テ釣漁シ得ラルヽコトハ認メ得タリ之レ漁期ニ大關係ヲ有スルモノニシテ本試驗ヲ實施シタルハ單ニ二十五日間ノ少時日ニシテ充分ナル調査ヲ得ザリキ

五、前記ノ如ク當地方ニ於テ鯛ハ浮繩ニテ釣漁シ得ラルヽモ今回ハ其試驗期日短少ナリシ故後日更ニ充分ノ時日ヲ以テ繼續實施ヲ試ミント欲ス

（ホ）漁網編成器械使用試驗

一、本府下ニ於テ鰛刺網ニ使用スル「カヘルマタ」編網ハ其需要多キニモ拘ハラズ之レヲ手編若クハ各方面ヨリ高價ヲ以テ購入セリ然ルニ「カヘルマタ」編器械ハ既ニ使用セラルヽモノアルヲ以テ之レヲ實際當業者ニ使用セシメ有利ナルヤ否ヤヲ試驗シタリ

二、本試驗ヲ實施シタル場所ハ本所漁撈室內ニ於テシ期日ハ明治四十四年二月二十一日ヨリ仝年三月三十一日ニ至ル三十九日間

三、本試驗ニ使用シタル編網機ハ三重縣津市南堀端中村隆三ヨリ講入シ本所特別講習修

三、本試驗ニ使用シタル簗ハ大分縣漁夫(本所雇漁夫)ノ監督ノ下ニ竹ヲ購入シ藁繩ヲ以テ編成シタルモノニシテ巾一間半長サ二間高サ五尺ノモノニシテ之レヲ錨ヲ以テ海面ニ定置シ其中ニ鰤ヲ伊根村ヨリ購入シ來リテ放養シタリ

四、其結果ハ良好ニシテ放養シタルハ鰤ノミニシテ一尾ノ斃死ヲ見タレモ他ハ皆健全ナリ購入價格ハ一尾壹圓七拾錢ナリシカ需要者アリテ其中數尾ヲ賣却シタルニ參圓七拾錢ノ高價ヲ得タリ

五、尙ホ簗ヲ大ニシ多ク放養シ且ツ鰤魚ノミニ限ラズ鯛鰺等ヲモ試驗セント欲ス

(ト) 丹後沖合冬期漁業試驗

一、從來冬期間本府及福井沿岸ハ手繰網ヲ使用シ居ルモ其漁場至テ狹小ナルモノヽ如シ故ニ漁場調査及ヒ他ニ新漁場アルヘキヤ又西洋形帆船ヲ以テ冬期漁業ヲ經營シ得ヘキヤヲ試驗セリ

二、本試驗ヲ實施シタル場所ハ福井縣沖合ヨリ本府沖合ニ至ル海深三四十尋ヨリ百七十尋迄ニ及ブ

本試驗實施期日ハ四十三年十二月廿五日ヨリ四十四年三月二十三日ニ至ル九十九日間

業生ヲシテ編網セシメ材料ハ宮津町糸商店ヨリ購入シタル木綿糸片撚四十手四本合セ及二子撚二十手六本合セヲ使用シタリ

四、試驗ノ結果ハ良好ニシテ使用方法ハ極メテ容易ニ五六日ヲ以テ器械ハ使用シ得ベク十五六日ヲ經バ熟練シ一日七八尋ヲ編網スルハ容易ナリ而シテ一尋ニ對シ五錢ノ編網賃ヲ仕拂フモ尙ホ從來ノモノニ比シ三分ノ一以上安價ナル網ヲ使用スルコトヲ得ルニ至ルヲ認ム

五、本試驗ハ其第一次ノ目的ヲ達シタルヲ以テ之レヲ繼續スルノ必要ナキカ如シト雖モ之レヲ直チニ漁村ニ移スモ漁民ノ經濟上困難ナルガ故或ハ模範工場ノ如キモノヲ建設シ以テ編網セシメ漁民ニ網地ヲ供給セシムルノ方法ヲ試驗セント欲ス

(ヘ) 簗試驗

一、近來丹後海ニ於テ鰤大敷網多ク布設セラレ一時ニ多クノ漁獲アルヲ以テ其際非常ニ安價トナルヲ常トス其時之レヲ簗ニ放養シテ不漁ノ際之レヲ賣却シ一方價格ノ暴落ヲ防キ不漁ノ際鮮魚ヲ供給シ得ラルヘキ目的ヲ以テ該試驗ヲ行ヒタリ

二、本試驗ヲ實施シタル場所ハ宮津内灣ニシテ期日ハ明治四十三年十一月二十九日ヨリ始ム

三、本試驗實施ハ福井縣南越遠洋漁業株式會社ニ囑托シ水産局ヨリ一名ノ出張員及ヒ本所職員一名乘船シテ指揮監督シ船ハ第二三國丸ヲ用ヒ漁具ハ手繰網及延繩ヲ使用シ從來ノ漁場ト比較スル爲メ福井縣及本府ヨリ各一名ノ漁夫ヲ乘船セシメタリ

四、本試驗實施ノ結果手繰網漁場トシテ在來出漁シアル漁場以外ニ豐漁且ツ擴大ナル漁場ヲ探知シ又延繩ヲ以テ鱈ヲ多ク釣獲シ其他鰹鰤等ノ新漁業ヲ發見シ且ツ西洋形漁船ヲ以テ冬期四ヶ月間充分利益ニ經營シ得ルコトヲ認メタリ

五、本試驗ヲ尙ホ確實ニ立證セシメン爲メ四十四年度本所ニ於テ新造スル西洋形漁船ヲ以テ繼續施行セント欲ス

（チ）網地染料試驗

一、近來丹後沿岸ニ鰤大敷網非常ニ多ク布設セラレ漁獲モ亦多キヲ以テ當業者ハ其染料ニ困シ漁期間浸水シ置キ尙ホ網ヲ保チ得ヘキ染料ヲ求メント欲シ且ツ在來ノ染料ト比較試驗ヲ行ヒタリ

二、右試驗ヲ實施シタル場所ハ本所ニ於テ染網ヲナシ宮津灣ニ於テ浸水放流シ置キ其ノ防腐ノ度及强弱試驗ハ農商務省水産講習所ニ於テ本所職員之レヲ行ヒタリ

浸水期日ハ第一期ハ二ヶ月間ニシテ第二期ハ三ヶ月間トス

三、本試驗ヲ實施スルニ用ヒシ原料ハ木綿糸網及麻糸網ニシテ大敷網ニ使用シ居ルモノト同一ノモノヲ用ヒ染料トシテハ「コールタル油、テール油、樺皮、カツチ、網染粉、日高式染料本エツキス、及ビ白煮」ノミニテ染料ヲ用ヒザルモノ八種ニテ之レヲ行ヒタリ

四、コールターヲ以テ染料トセバ從來ノモノヨリ比較的永久ニ堪ヘ得ルコトヲ認メタレモ其試驗材料ノ少量ナリシト（四寸五分目五十掛一尋ヅヽ）夏期ニ於テ宮津灣内ニ於テ之レヲ行ヒタルモノナル故其結果直チニ大敷網ニ適用シ得ヘキヤ否ヤヲ確定スルコト能ハズ

五、該試驗ハ尙ホ充分ノ材料ト位置トヲ選ヒ繼續試驗セント欲ス

二、製造部

（イ）鰮水煮罐詰試驗

本府沿岸到ル處鰮ノ漁獲多ク殊ニ本所附近與謝郡伊根村地方ハ春夏ノ交大鰮ノ漁獲多ク其盛漁期ニ於テハ脂肪ニ富ミ味最モ佳良ナルモ其豐漁ニ際シテハ價格低廉ナルヲ以テ海軍向ノ目的ヲ以テ此試驗ヲ實施セリ丹後海中羽鰮ノ盛漁期ハ毎年四月中旬ヨリ六月中旬迄トス然ルニ本年ハ大羽鰮三月下旬ヨリ四月中旬ニ亘リ多量ノ漁獲アリシモ脂肪欠乏不味ニシテ不適當ナリシヲ以テ一二回ノ試驗ニ止メ中羽鰮ノ期ヲ待チ

原料ヲ與謝郡伊根村ニ仰キ製造ニ着手セリ最モ生魚運搬ニ不便ナル時期ナルカ故ニ漁獲地ニ於テ調理鹽漬ヲ行ヒ輸送セシコトモアリシモ多クハ生ノ儘運搬ニ注意シ毎朝午前五六時頃原料ノ本所ヘ着スルヤ直チニ一回水洗シ次ニ鋏ヲ以テ頭部ヲ切リ落シ竹篦ニテ腹部ヲ破ラザル樣臓腑ヲ筒扱トナシ之レヲ血液汚物ノ付着セサル樣充分清洗シテ目籠ニ入レ暫時水分ヲ滴下セシメ而後鹽水槽ニ入レテ鹽漬シ適度ノ時間ヲ經過シテ之レヲ取リ出シ一度淡水ヲ以テ手早ク洗淨シ屋外適當ノ場所ニ於テ簀上ニ並列シ外皮ニ皺ノ生スル迄乾燥シ雨天ノ際ハ本所ニ設備セル氣熱乾燥器ヲ利用シ乾燥セリ

乾燥終レハ秤量シテ罐ニ充塡ス之レヲナスニ最初原料ノ背部ヲ罐ノ底部ニ付着セシメ頭部ヲ罐ノ兩側ニ向ケ中央ニ尾部ヲ交叉シテ充塡ス層々斯ノ如クスルコト三四層次ニ背部ヲ上ニ向ケテ同樣一二層充塡ヲナシ五六層ニシテ一罐分ヲ詰メ終リ其儘蓋ヲナシ封鑛加熱セリ加熱ニ際シテハ原料罐内ニ充滿セルカ故ニ二回ノ排氣ヲ行ヒタリ

製品ハ成績良好ナリシモ海軍省ニ於テハ鰛水煮罐詰ノ供給充實ナリシヲ以テ購入ヲ得サリシモ軍隊及紡績並ニ製糸會社職工等ノ日常ノ副食物ニ好適セルノ故ヲ以テ四十、十六ノ三師團各管下ノ諸軍隊及ヒ大坂其他諸會社工場ヘ賣却ヲ試ミタリ

此製品ヲ四十三年十月十六日横須賀發ノ海軍練習艦隊淺間ニ托シ遠洋航海中ノ保存耐久ヲ試驗セシニ左ノ証明ヲ得タリ

明治四十三年八月下旬貴所ヨリ試驗用トシテ委托ヲ受ケタル鰛水煮及油漬罐詰ハ遠洋航海中屢々試用シタルカ別ニ變味變質ヲ來サス内容ニモ大小ノ不整少ク肉ハ緊リテ潰レズ鹹味亦タ適當ニテ品質佳良ナルモノト認ム但シ水煮鑵ノ塗具ハ水氣ニ遇ヘハ剝ケ易キヲ以テ改良ノ必要アリト認ム

明治四十四年三月六日　練習艦隊參謀

該試驗ノ成績品ハ本年度ニ於テハ之レヲ海軍省ヘ納入シ得サリシノミナラズ試賣上又ハ製造上尙ホ多クノ試驗ヲ要スル事項アルヲ以テ明年度ニ於テモ繼續施行ノ見込ミナリトス

（ロ）鰤水煮罐詰製造試驗

丹後沿岸近年鰤大敷網漁業大ニ發達シ鰤ノ漁獲非常ニ增加シ其盛漁期ニ於テハ價格低廉ナルカ故ニ海軍向ノ目的ヲ以テ之レカ試驗ヲ實施セリ然ルニ本年ハ近年ニナキ不漁ニシテ爲メニ價下落セズ從テ豫定ノ數量ヲ製出シ得サリシハ遺憾ナリシ

原料ハ主要集散地タル舞鶴町ヨリ購入シ原料ノ到達スルヤ一回海水ニテ洗淨シ鱗ヲ

剝キ腹部ヲ開キ臓腑ヲ除去シ一度水洗シ三枚卸トナシ肋骨ヲ抄キ取リ一定ノ寸法ニ細切シ鹽漬槽ニ入レテ鹽漬トナシ適度ノ時間ヲ經テ取リ出シ直チニ水洗シ目籠ニ移シ水分ヲ滴下セシメ罐ニ充塡ス其法ハ原料ノ皮部ヲ罐ノ側面ニ付シ二段詰トナシ封鑞加熱ス

原料不漁ノ爲メ豫定ノ數量ヲ製造スルヲ得サリシモ成績良好ニシテ舞鶴海軍經理部ヘ賣却セリ

罐詰審査表

審査成績		標準点	評点
肉質	優		
防腐劑ノ有無	檢出セズ		
品質	灰分對硫化水素反應	僅	微	三〇	二八
	硝酸鉛反應	無			
	細菌檢査成績	陰	性		
孵化試驗成績	七日間放置シタル結果五十個中一モ腐敗ノ徵ナシ	三〇	三〇

固形肉ト肉汁ノ量	固形肉貳百十三匁肉汁三十八匁	二〇	二〇
罐器	長丸形ニシテ鐵力ハ規定ニ適合シ外部塗色佳ナリ	一〇	一〇
鑞金ノ配合	錫59860%鉛4015%		
外箱	上等縱材ニシテ妻板六分以上其他五分以上釘一寸五分四十本ヲ用ユ	一〇	一〇
計		一〇〇	九八

該試驗ハ未タ納入數量多カラズ且諸種試驗ヲ要スルノ事項アルヲ以テ繼續實施ノ見込ミナリトス

（ハ）鰤スライス罐詰試驗

本府下鰤漁獲高頓ニ增加セシヲ以テ之レカ利用法トシテ該試驗ヲ施行セリ

製法ハ先ツ原料ノ臓腑ヲ除キ次ニ三枚卸トナシ腹骨ヲ抄キ去リ一尾ニ付三合五勺ノ割合ニテ鹽漬シ重壓ヲ加ヘ鹽味ノ適度ヲ計リ取出シテ水洗ヲナシ尾部ヲ糸ニテ括リ陰所ニ吊乾シテ水分ヲ去リ燻室ニ運ヒ入レ燻乾スルコト十五日間其間時々休燻ヲナシ製了シタル後外皮ヲ剝キ取リ薄ク切リ一列毎ニ硫酸紙ヲ敷キ四段ニ重ネ罐詰トナシ普通釜ニ入レ五分間給熱シテ排氣ス

前年度ニ於テ初メテ之レカ製造試驗ヲ施行セシニ本邦ニ於テ從來未ダ之レニ類似ノ食料ニ乏シキガ故ニ當初ニ於テハ之レカ賣行充分ナラザリシモ各方面ニ向ケ見本ヲ送附シ廣ク品評ヲ需メシ結果中流以上ノ社會ニ於テ大ニ歡迎ヲ受ケ本年製造ノ分ハ未ダ製造ヲ了ヘザル際ニ於テ悉皆賣却ノ豫約ヲナセルモノアリ

該試驗ハ前項記載ノ如ク良好ノ成績ヲ得タリト雖モ尚ホ其製了數甚ダ多カラズ從テ未ダ廣ク世ニ紹介スルコトヲ得サルヨリ尚ホ繼續實施スルノ見込ミナリ

(ニ) 蒲鉾改良試驗

第一回ハ四十三年十一月三日ヨリ仝月十二日迄熊野郡久美濱町ニ於テ特別講習ノ傍之レヲ施行シ第二回ハ四十四年二月十五日ヨリ仝月二十一日迄加佐郡舞鶴町ニ於テ特別講習ノ傍之レヲ施行セリ

本府熊野郡久美濱町ハ良灣ヲ控ヘ適當ノ原料少ナカラザルガ故ニ古來久美濱蒲鉾ハ仝地方ノ特產ヲ以テ見做サレシモ從來更ニ改良ヲ加フルコトナク寧ロ粗製ニ流ルヽノ弊アルヲ以テ近來仝地方附近兵庫縣城崎豐岡等各町村ノ發展ニ伴ヒ販路益々有望ナルニ拘ハラズ却テ狹塞スルノ傾アルヲ以テ同町ニ於テ蒲鉾製造ノ講習ヲ開始シ本所ニ於テ前年來京都大阪ノ兩市ヨリ敎師ヲ聘シ兩地製法ノ各特長ニヨリ研究シタル製造法ヲ講習シ傍ラ仝地方ノ原料及ヒ製造法ニ付キ改良スベキ点ヲ試驗セリ其主ナルモノ左ノ如シ

仝地方在來ノ座板ハ狹少ニ過ギ外觀惡シ依テ之レヲ廣クシ肉付ハ「せつかい」ヲ用ヒシヲ庖刀付トシ肉ヲ臼ニ入ル前庖刀ヲ以テ充分ニ肉練ヲナスコト從來上塗肉ニ上等ノ肉ヲ使用セシモ之レニ代ユルニ從來廢棄セシ顎肉及腹身等ヲ叩キ洒シテ之レニ供用シ且骨肉筋ノ如キハ天麩羅ニ供用シテ其結果ヲ試ミ又肉ノ洒白法等ニ就キ試驗セリ

加佐郡舞鶴町ニアリテハ舊來田邊板ト稱シ仝所產蒲鉾ハ甚ダ著名ナルモノナリシカ漸次粗製ニ傾キ其名聲地ニ墜ツルニ至リ去ル四十一年度ニ於テ同郡水產協會ノ事業トシテ敎師ヲ大阪市ニ仰キ改良製造法ノ講習ヲ爲シ其効果見ルヘキモノアリシヲ以テ本年度ニ於テハ本所ヨリ敎師ヲ派遣シ之レガ講習ヲ開キ傍ラ仝地方ノ製法及原料ニ付改良方法ヲ試驗セリ其主ナル点左ノ如シ

一 調理洗滌
一 採肉法
一 晒肉法
一 肉練法

一火取法
一骨肉及汚肉ノ利用法
一調味材料ノ配合及使用法

久美濱ニ於ケル試驗及講習ノ結果ハ甚顯著ニシテ改良法ハ直チニ當業者間ニ於テ實施セラレ販路亦タ次第ニ擴張ノ順境ニ向ヘリ仝地講習生ハ悉ク當業者ニシテ各自營業ヲ休止シテ講習ヲ受ケタリ講習生中最年長者ハ五十五歳ニシテ尚ホ講習生中年齡五十四歳ノ婦人ヲ得タルガ如キ如何ニ仝地方當業者ガ此講習及試驗ヲ熱心ニ歡迎シタルカヲ知ルニ足ラン

舞鶴町ニ於テモ其成績又極ノテ佳良直チニ蒲鉾商組合ヲ組織シ協力其製造方法ノ研究ヲナシ延ヒテ原料及諸材料ノ共同購入及製品ノ檢査ヲ實施セントノ計畫ヲ立ツルニ至レリ

該講習及試驗ノ結果前項記載ノ如ク良好ナルノミナラズ久美濱當業者ノ如キハ尚ホ一回該講習及試驗ノ實施ヲ希望シテ止マザルニヨリ四十四年度ニ於テハ本所内ニ於テ種々蒲鉾製造ニ關スル講習及試驗ヲ施行スルノミナラズ久美濱町ニ於テモ尚ホ繼續實施ノ見込ミナリ

三、養殖部

（イ）牡蠣蕃殖試驗

一、牡蠣蕃殖試驗ハ前年來ノ繼續事業ニシテ其試驗方法モ亦前年ト異ナルコトナシ

二、該試驗ヲ施行シタル場所ハ京都府與謝郡吉津村字須津則チ天橋内灣トス

三、該試驗實施ノ方法ハ別ニ前年ト異ナルコトナク松樹ノ皮ノ附着セルモノ又ハ皮ヲ剝ケルモノ又ハ其他ノ樹枝或ハ竹ヲ樹枝ノ周圍ニ束ネタルモノ等ヲ同一ノ場所ニ建立シテ以テ何レニ最モ多ク附着スルヤヲ試驗セリ

四、試驗ノ結果四十三年度ハ蠣苗ノ附着一般ニ少數ナリシヲ以テ確實ニ之レヲ決定スルヲ得ザリシト雖モ概シテ表面ノ粗雜ナル樹皮ニ割合多クノ附着ヲ認メタリ

五、該試驗ハ唯タ天橋内灣ニ於ケル蠣介ノ生長度幷ニ性狀等ニ就テ調査研究ヲナスニハ必要ナルコト勿論ナルモ營利的ニ此ノ事業ヲ經營セントスルニハ此方法ヲ適當トナスヤ否ヤハ疑問ナリトス兎ニ角來年度ニ於テハ尚ホ該試驗ハ繼續實施ノ見込ミナリ

（ロ）龍蝦移殖試驗

一、該試驗ハ前年來ノ繼續事業ニシテ當地方ニ未ダ曾テ其隻影ヲ認メザル龍蝦ヲ當地方ニ移植シテ果テ蕃殖ノ効果ヲ奏スルモノナルヤ否ヤヲ確メントスルニアリ

二、該試驗ヲ施行シタル場所ハ京都府加佐郡西大浦村字千歳沿岸則チ舞鶴灣口トス

三、試驗實施ノ方法ハ本所職員ヲ德島縣那賀郡椿泊村ニ派遣シ仝地ニ於テ購入シタル龍蝦ヲ箱詰トナシ滊車便ヲ以テ之レヲ舞鶴ニ輸送シ仝所ヨリ船ニテ移植地ニ送リ直チニ放養スルモノトス

四、該試驗ノ結果ハ未ダ之レヲ確カムルコト能ハズト雖モ放養後約一ケ月半ヲ經タル後放養地点ヨリ約海上十丁許ヲ隔リタル場所ニ於テ舞鶴町字吉原漁業者某手繰網ヲ以テ他ノ魚類ヲ捕獲セル時其網中ニ勢ヒヨキ二匹ノ龍蝦ノ罹網セルヲ認メタリト云フ之レニ依リテ見レバ龍蝦ハ仝地ニ放養後能ク蕃殖ノ効果ヲ奏スルヤ否ヤハ後日ヲ待ツニアラザレバ之レヲ確ムルコトヲ得スト雖モ放養後直チニ斃死スルガ如キコトナキハ明カナリ

五、試驗實施ノ經過前項記載ノ如クナルノミナラズ四十三年度ノ移植數ハ其數甚ダ僅少ナリシヲ以テ尚ホ繼續實施ノ見込ナリ

（ハ）鯇魚卵移植試驗

一、本府加佐郡ノ事業トシテ四十二年度ヨリ仝郡由良村ニ於テ由良川ニ溯上スル鮭魚ヲ以テ人工孵化放流ノ事業ヲ實施シ之レガ技術上ノ監督ヲ本所ニ委囑セリ依テ此ノ機會ヲ利用シ滋賀縣水產試驗場ヨリ四十二年度ニ於テハ鯇魚卵壹万粒ノ配布ヲ受ケ豫備試驗トシテ之レカ孵化ヲ試驗シタルニ結果良好ナリシヲ以テ四十三年度ニ於テハ重テ同卵貳万粒ノ配布ヲ受ケ之レヲ孵化セシメ後之レヲ一定ノ池中ニ養ヒ以テ其成長經過ノ狀況ヲ試驗セントスルナリ

二、該試驗事業ヲ實施セル場所ハ京都府加佐郡由良村ニシテ日下試驗繼續實施中ニアリ

三、四十三年十二月十七日普通荷造法ニヨリ送附セラレタル鯇魚發眼卵ノ到着ヲ待チ直ニ解荷孵化函ニ移シ孵化セシメ最初飼料トシテ雞卵ノ黃身ヲ與ヘ後數日ヲ經テ乾蠶蛹ノ粉末トセルモノヲ給餌シタリ

四、遠ク輸送ノ結果ニヨルカ又ハ水質水温ノ變化ニヨルカ明ニ知ルヲ得スト雖モ到着當時ハ餘リ多クノ死卵ヲ見サルニモ拘ラズ數日ヲ經テ漸々死卵ヲ出シ孵化後三四日ヲ經テ更ニ多クノ斃死魚ヲ見タリ

五、前項記載ノ結果ニヨリ成長シタル鯇魚ハ四月中旬之ヲ池ニ移シ爾後給餌來年度ニ繼續シテ之レヲ試驗セントス

一、經常費

年度／種目	俸給	雜給	所費	事業費	傳習生補助費	小修繕費	計
卅二年度	七四一、〇六九	四八三、七二七	四五三、五二五	五二二、三九四	二三六、〇〇〇	八、六一〇	二、四四六、二二五
卅三年度	一、三三一、〇四四	九五四、一二六	五七九、一八七	一、五九三、七三七	四二〇、〇〇〇	九八、三五九	四、九七六、五六三
卅四年度	一、六三二、五三三	一、〇二六、五二八	七三一、八二一	一、四一三、六〇二	四三〇、〇〇〇	六四、九九九	五、三一〇、四八三
卅五年度	一、八八七、三七一	九七五、六二五	六六七、〇五三	一、四八〇、八〇二	四七二、〇〇〇	三〇、〇〇〇	五、五一二、八五〇
卅六年度	二、〇五八、〇〇〇	一、一七六、三〇七	七八七、三三四	二、二二四、〇四七	二五二、〇〇〇	一三一、五一七	六、六一九、二〇五
卅七年度	一、七六六、三二二	一、五七五、二二五	三、〇〇五、九〇四	三四、五〇九、三七七	……	一八、〇〇〇	四〇、八七四、八二八
卅八年助	一、七九九、一九三	一、八五三、三〇〇	一、八〇〇、八八〇	二五、四一六、六七九	……	一〇、二二〇	三〇、八八〇、二七二
卅九年度	二、〇二五、九六〇	一、五六九、四二五	一、二九六、五三七	一三、四九二、七四七	……	一八、〇〇〇	八、四〇二、六六九
四十年度	二、一四五、六七〇	二、〇五八、三八〇	一、四二五、六二五	八、五〇三、八三六	……	四〇九、三五〇	一四、五八二、八六一
四十一年度	二、八四八、〇〇〇	一、二三八、三六〇	一、六三二、七〇〇	九、九三一、一五〇	……	一〇〇、〇〇〇	一五、七四〇、二一〇
四十二年度	三、二〇四、〇〇〇	一、四三、四〇〇	一、二七二、四三〇	一三、五四一、〇〇〇	……	二五五、〇〇〇	一九、六九四、八三〇
四十三年度	三、二五三、〇〇〇	一、九〇五、五六〇	一、三四八、三〇〇	二一、五〇八、三〇〇	……	二七五、〇〇〇	一八、二八九、一六〇
合計	二四、六九二、一六二	一六、二七九、〇八三	一四、九九二、二八六	二二四、一三七、五七〇	一、八一〇、〇〇〇	一、四一九、〇五五	一八三、三〇、一五六

二、臨時費

年度別	金額	備考
三十六年度	一四九、八五二	決算額ヲ示ス
三十七年度	三、〇五九、一六五	仝
三十八年度	四、九九三、五二九	仝
三十九年度	一一、四三七、九四五	仝
四十年度	三、九三七、四八〇	仝
四十一年度	七、四一五、〇〇〇	仝
四十二年度	一、三七〇、〇〇〇	仝

明治四十四年十一月七日印刷
明治四十四年十一月十日發行

京都府水産講習所

印刷者　大阪市西區南堀江上通壹丁目壹番地　田中辰之助

印刷所　仝　龍文舍

267
406

終